

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

日本作業療法士協会誌

2016

11

特集 第50回 日本作業療法学会

●平成29年5月は役員改選—2月のインターネット投票で各会員の意思を表そう

【連載】

保育所等訪問支援を知ろう！② 保育所等訪問支援の支援類型

協会50周年記念事業⑦ 日本作業療法士協会設立50周年記念式典の祝辞

【追悼】

名誉会員 長谷川 元 先生

50th JAPAN
日本作業療法士協会
設立50周年

これからも あなたと共に 作業療法



一般社団法人

日本作業療法士協会

事務局からのお知らせ

◎WFOT（世界作業療法士連盟）個人会員の入会・退会について

WFOT（世界作業療法士連盟）個人会員の入会・退会手続きは、協会が代行しています。

WFOTの年度が1月1日開始となるため、入会・退会を希望される場合は11月30日までに協会事務局までご連絡をお願いいたします。

◎勤務先・自宅住所等に変更がある場合は「変更届」をご提出ください

◆次のケースに該当する場合は、必ず「変更届」をご提出ください！

- 勤務先が変わった
- 自宅住所が変わった
- 姓名が変わった
- 協会発送物の送付先を変更したい
- その他ご自分の登録情報に変更がある場合

◆「変更届」の用紙はどこに？

- ①会員の皆様には毎年5月、クリーム色の封筒にて、当該年度版の『変更届およびWEB版会員システム利用パスワード申請用紙』（オレンジ色の冊子）を郵送しています。この中に「変更届」の用紙が綴り込まれています。
- ②協会ホームページからも「変更届」の用紙をダウンロードすることができます（協会ホームページ＞会員向け情報＞Members Info＞各種届出＞変更届）。

◆「変更届」の提出方法は？

- ①FAXで事務局に送信してください（FAX 03-5826-7872）。
- ②郵便で事務局にご提出ください（〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル7階）。

◆登録情報をご自分で修正・変更することも可能です！

協会ホームページから、ご自分の会員番号とパスワード^(※)を使って「WEB版会員システム」にログインし、ご自分で登録情報を修正・変更することもできます（協会ホームページ＞会員向け情報＞Members Info＞会員システム＞WEB版会員システム）。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方は、「パスワード申請申込書」を事務局までご提出ください（郵送でのみ受付）。
「パスワード申請申込書」の用紙も上記の「変更届」と同じ冊子に綴り込まれています。

◆変更内容の反映

基本的に、月末までにご提出いただいた「変更届」の内容は、その翌月の発送データから反映されることになります。

◎休会に関するご案内

休会は年度単位（4月1日～3月31日）でのみ申請・取得が可能となっています。これは会員の資格が年度単位で登録されていることに基づいています。年度途中での申請や、数ヶ月単位の取得などはできません。

2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の休会を希望される方は、それに先立つ2017年1月31日までに「休会届」のご提出が必要になります。この提出期限を過ぎますと、2017年度の休会ができなくなりますのでご注意ください。

【申請手続】

前提条件……………①申請年度までの会費が完納されていること

②過去の休会期間が5年間に達していないこと

提出書類……………①休会届（協会事務局に連絡し、所定の用紙を請求。これに必要事項を記入し、署名・捺印）

②休会理由の根拠となる、第三者による証明書

○出産・育児……………出産を証明する母子手帳の写しなど

○介護……………要介護状態を証明する書類の写しなど

○長期の病気療養……………医師の診断書の写しなど

提出方法……………郵便でのみ受け付けます

提出先……………〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル7階

提出期限……………2017年1月31日

【証明書のご提出が申請の締め切りに間に合わない場合】

まず「休会届」だけ先に提出してください。その際、協会事務局にご一報いただき、いつまでに証明書の提出が可能かご相談ください。休会期間中の1月31日までに（申請時の1月31日ではありません。たとえば2017年度の休会に関してであれば2018年1月31日までに）証明書をご提出ください。

【制度の詳細】

休会制度の詳細および「Q & A」については協会ホームページをご覧ください（協会ホームページ＞会員向け情報＞Members Info＞各種届出＞休会制度）。その他ご不明な点は協会事務局（電話 03-5826-7871）までお問い合わせください。

contents

目次 ● 2016. 11/15 No.56

日本作業療法士協会誌

平成 28 年 11 月 15 日発行 第 56 号

追悼 名誉会員 長谷川 元 先生 寺山 久美子・2

特 集 第 50 回 日本作業療法学会

私の学会印象記 7
学会参加者にインタビューしました 13
次期学会長にインタビューしました 18

協会 50 周年記念事業⑦

日本作業療法士協会設立 50 周年記念式典の祝辞 19

会議録 平成 28 年度第 6 回定例理事会抄録 4

協会各部署活動報告 (2016 年 9 月期) 5

●平成29年5月は役員改選ー2月のインターネット投票で各会員の意思を表そう 6

連 載

保育所等訪問支援を知ろう！② 保育所等訪問支援の支援類型 29

事例報告登録システムから●登録事例の紹介

MTDLP を活用し一部復職に至った事例 34

国際部 INFORMATION ●

世界作業療法士連盟発行『WFOT Bulletin』ブリテン通信 36

溝部二十四さん
平成 28 年度飯田賞奨励賞を受賞 28

Asian Journal of Occupational Therapy
投稿方法の変更 32

全国研修会ー熊本会場ーのご案内 38

協会主催研修会案内 2016 年度 40

多領域 MTDLP 実践研修会 42

催物・企画案内 43

協会配付資料一覧 45

【日本作業療法士連盟だより】 46

求人広告 47

編集後記 48

追悼 名誉会員 長谷川 元 先生



写真 平成 26 年 9 月 2 日 第 15 回神奈川県作業療法学会座談会にて撮影

大阪河崎リハビリテーション大学 寺山 久美子

平成 28 年 9 月 25 日、日本作業療法士協会設立 50 周年の式典と祝賀会が東京新宿のホテルハイアットリージェンシー東京で盛大に行われました。鈴木明子・矢谷令子・寺山久美子・杉原素子の歴代会長をはじめ、名誉会員等作業療法功労者は前方の指定席に着きました。「名誉会員 長谷川 元」と書かれた氏の席は最後まで空席でした。「いつもこうした会には必ずお元気な姿を見せていたのに」と皆で心配しておりました。その後、協会事務局より「長谷川先生 平成 28 年 9 月 19 日 心筋梗塞により逝去 79 歳」の悲報がもたらされました。式典の時にはすでにこの世の人ではなかったことに改めて驚きと悲しみが襲ってまいりました。長谷川先生のよく通るやや高めの澄んだお声と優しい笑顔を目に浮かべ、長年にわたる協会活動でのご厚誼に感謝の意をこめてこれを書いています。

長谷川先生は「特例措置」により理学療法士の国家試験に合格された後、昭和 44 年、第 4 回の作業療法士国家試験で合格された（免許番号 141）、あまり例のない「ダブル免許」の持ち主であり、我が国リハビリテーション界草創期から活動を始めたお一人であります。「なぜ理学療法士ではなく作業療法士の道を選んだのですか？」の私の問いに、「理学療法士として脳性まひ児の立位訓練をやっていた時思ったのですが、理学療法はこの姿勢でただ立たせるだけ。ここから子どもたちに上肢を使わせ、豊かな遊びの世界を広げられる作業療法の方が面白いと気づきました」。

長谷川先生は関東労災病院リハビリテーション診療科に勤務後、当時の川崎市リハビリテーションセンターに奉職し、以後定年まで主として川崎市の障害児療育のお仕事をされ、役職者となってもそのお人柄で職員・保護者たちに信頼される存在であり続けたと聞いております。定年後は教職に転じ、横浜リハビリテーション専門学校副校長・参与として後進の指導にあたった後、最後のお仕事は「NPO 法人赤いふうせん 理事長」として障害者の就労活動を支援しておられたと伺っております。

本業である「作業療法活動」では、先生とお仕事を共にしたことはありませんが、作業療法士協会活動ではほぼ50年間、共に様々な役割を果たしてきました。常務理事として各種委員会委員長を引き受けていただき、また私が日本作業療法士協会会長であった平成3年～12年の10年間は副会長として、「女房役」(?)として会長を支えていただきました。先生はお酒が好きで、たとえば地方での士会会議の時などでは、得意の「飲みニケーション力」で交流の輪を作ってくれました。また、ミレニアムの2000年、第34回全国学会では学会長を引き受けていただき、持ち前の「調整力」で見事に学会運営を成功に導いていきました。地元神奈川県での士会活動にも意欲を持って取り組まれ、神奈川県士会長の役割も果たされました。

こうした功績により、平成21年には日本作業療法士協会により「名誉会員」として推挙されるにいたりました。

先生は、若干お目が不自由でしたが、それを補って余りある「記憶力」と「言語力」「判断力」「バランス感覚」をお持ちで、この能力を生かして、古くは2つの国試を勝ち取り、その後の仕事上の成功を導いたものと思います。優しい笑顔からは見えない部分で「努力の人」でもあったと思います。

先生、長い間本当にありがとうございました。

長谷川 元 先生 略歴

【基本データ】

1936年9月20日 生まれ
2016年9月19日 逝去
免許番号：141（1969年免許取得）
会員番号：111（1969年入会）
名誉会員：2013年～2016年

【略 歴】

関東労災病院リハビリテーション診療科、川崎市リハビリテーションセンター療育相談所・更生相談所・あすなろ学園・れいんぼう川崎、横浜リハビリテーション専門学校副校長を経て、NPO法人赤いふうせん理事長。

【協会役員歴】

1970～1971年 常務理事
1971～1974年 理事
1974～1990年 常務理事
1991～2001年 副会長
2001～2007年 監事

【その他の主な協会役職歴】

2000年 第34回日本作業療法学会学会長
1970～1971年 庶務部部长
1973～1974年 点数化問題委員会委員長
1974～1977年 診療報酬対策委員会委員長
1977～1991年 渉外部部長
1995～1997年 30周年記念誌編集委員会委員長
他多数

【表彰歴】

1986年 厚生大臣表彰
1996年 日本作業療法士協会 協会表彰
2009年 日本作業療法士協会 名誉会員表彰 他

【都道府県作業療法士会役員・役職歴】

1981～1986年 神奈川県作業療法士会副会長
1987～2006年 神奈川県作業療法士会会長
2007～2013年 神奈川県作業療法士会監事
2013年～ 神奈川県作業療法士会名誉会員
2014年～ 神奈川県作業療法士会特別顧問

平成 28 年度 第 6 回 定例理事会抄録

日 時：平成 28 年 10 月 15 日（土）13：00～17：00

場 所：一般社団法人日本作業療法士協会事務所 10 階会議室

出 席：中村（会長）、荻原、香山、土井（副会長）、宇田、
菊山、小林正、座小田、陣内、藤井、三澤、山本（常
務理事）、大庭、小川、川本、清水兼、谷、二神（理
事）、長尾（監事）

陪 席：石橋、山崎（委員長）、岡本（財務担当）

I. 報告事項

- 議事録の確認（土井副会長）
 - 平成 28 年度第 3 回定例常務理事会議事録 書面確認
 - 平成 28 年度第 5 回定例理事会議事録 書面確認
- 平成 28 年 8 月期の収支状況について（香山財務担当副会長）収入は当初予測の 67.7%、支出の執行率は 33.6%。例年の状況と特に変化はない。
- 会員の新規入会状況について（荻原事務局長）
 - ①今年の国家合格者の養成校別入会状況：9 月時点での状況を一覧にまとめた。組織率向上の基本資料にもなる。
 - ②既卒の作業療法士の新規入会状況：2011 年度からの 2016 年度までをまとめた。2016 年については 9 月 25 日現在のものとなっている。
- 次期システム要件定義の進捗状況について（東京コロニー山本氏）次期システムの代表的な新機能、今後の開発スケジュール及び公開スケジュールについて説明された。
- 自動車運転に関する作業療法士のためのガイドライン進行状況について：書面にて内容を確認。
- 第 3 回東アジア諸国との交流会について（藤井国際部長）9 月 8 日に開催。来年まで日本での開催が決定されている。それ以降の開催については今後、各国の意見をいただく。
- 常務理事会の審議経過について（中村会長・各部部長）10 月 14 日に開催し、課題を共有した。内容について各部部长より報告がされた。次回常務理事会は 12 月 2 日 13 時から開催する。
- 会長及び業務執行理事の 9 月期活動報告 書面報告
- 協会各部署の 9 月期活動報告 書面報告
- 渉外活動報告 書面報告
- 日本作業療法士連盟の動き：連盟の事務所の経過について質問が出され、法的整備及び書類の整備中であると荻原事務局長より報告された。
- 訪問リハビリテーション振興財団の動き（谷理事）作業療法士の研修会への参加が少ないので研修会への参加を促進したい。
- その他 1) 中村会長：①リハ三団体の活動として地域リハビリテーション、地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションのあり方検討会を設置した。年に数回

の勉強会を開催の予定。②リハビリテーションを考える会の総会が 11 月に開催予定。

- 2) 50 周年記念式典について（川本理事・荻原事務局長）50 周年記念式典が無事に終了した。会計は後日報告する。当日の祝辞を機関誌に掲載予定。DVD は各県士会及び養成校に配布する予定。
- 3) 陣内教育部長：指定規則改定の会議が三団体で 10 月 14 日に開催された。
- 4) 荻原事務局長：厚生労働省「新たな医療のあり方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョンの検討会」の資料として医療提供体制に係る工程表が提出された。
- 5) 小林学術部長：次回東京学会についてプログラム等を 11 月か 12 月に HP に掲載する予定。

II. 審議事項

- 平成 29 年度の重点活動項目（案）について（荻原事務局）理事及び各部署からの提案をまとめ、さらに三役会、理事会での意見を踏まえ最終案を作成した。審議の結果、最終案に一部修正を加える。→承認
- 会員名簿の代替案について（荻原事務局）紙媒体での名簿発行の廃止を踏まえ、代替案を作成した。施設名簿として Web サイトに表示し、ID と PW でアクセスできるようにする。→承認
- 学術誌『作業療法』の販売価格および広告費の変更について（小林学術部長）学術誌が A4 判化されることに伴い、本体価格と広告費の変更を行う。→承認
- 介護支援専門員協会と三協会との連携強化に関する予算支出について（中村会長）介護支援員協会と連携を強化する目的で、三協会とケアマネ協会との合同会議を今年度実施する。それにかかる予算の追加計上をする。→承認
- 平成 29 年度作業療法推進モデル事業内容について（宇田 47 都道府県委員長）来年度より実施する事業内容について、4 領域 8 士会より出された事業案について審議した。予算については 11 月理事会で審議する。→承認
- 会員の入退会について（荻原事務局長）死亡退会 2 名。会費未納による会員資格喪失後の再度入会希望者 12 名。未納会費は精算済み。→承認
- 平成 28 年熊本地震で被災した会員の会費免除申請について（荻原事務局長）1 件の申請があり、会費免除とする。→承認
- 日本台湾交流の今後の事業内容について（11 月の台湾訪問時の会議に向けて）（藤井国際部長・石橋委員長・山崎 WFOT 委員長）今後も継続的に台湾との交流を継続する。その際には WFOT の方針に準じた対応を取る。具体的な事業内容については今後詰めていく。→承認

学術部

【学術委員会】学術委員会班長会議開催。平成29年度課題研究助成制度募集。事例報告登録制度の運営と管理。日本作業療法学会における作業療法定義改定シンポジウム開催。作業療法マニュアルの企画と編集。疾患別ガイドラインの編集作業。

【学術誌編集委員会】学術誌『作業療法』とAsian Journal of OTの査読管理及び編集作業。学術誌『作業療法』のA4判化への移行準備。学術誌『作業療法』論文表彰実施。

【学会運営委員会】第50回日本作業療法学会(札幌)開催。第51回日本作業療法学会(東京)の企画案・予算案の作成と組織体制の検討開始。

教育部

教育部の現状の課題と解決に向けた検討、各種会員からの問合せへの対応。

【養成教育委員会】WFOT「作業療法士教育の最低基準」2016改訂版の完成に伴う翻訳作業の着手、臨床実習手引き改訂第5版の執筆開始、臨床実習ガイドライン(指針)の作成開始、次年度に向けて教員研修会アンケート調査の実施、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会開催に当たり運営協力、他。

【生涯教育委員会】生涯教育システム第三次開発に関する会議開催、専門作業療法士の4分野WGの再構築とWGの開催(研修カリキュラムの見直しおよびシラバス作成の打合せ)、生涯教育制度推進担当者会議に向けた準備、等。

【研修運営委員会】平成28年度作業療法全国研修会の宮城会場及び熊本運営準備、平成29年度作業療法全国研修会の開催場所の検討開始、認定作業療法士取得研修、専門作業療法士取得研修、重点課題研修の実施、平成29年度研修企画、他。

【教育関連審査委員会】WFOT認定等教育水準審査担当:実地調査訪問日程調整。認定OT審査担当:第3回審査会議に向けた準備等。臨床実習審査担当:第3回審査会議に向けた準備等。試験担当:認定作業療法士修了試験の半期分の試験結果の集約、「訪問作業療法」「がん」分野の、他。

【作業療法学会書編集委員会】第1巻の原稿案の検討

制度対策部

【保険対策委員会】①診療報酬・介護報酬情報のホームページ更新、②会員からの制度に関する問い合わせ対応、③平成28年度診療報酬改定後緊急調査(身障領域)の報告書作成、④領域別制度改定対応調査の準備、⑤「作業療法士が関わる医療保険・介護保険・障害福祉制度の手引き」改訂に向けた準備、⑥緩和ケア研修会及びリンパ浮腫複合的治療研修会について準備。

【障害保健福祉対策委員会】①重点課題研修「学校を理解して支援できる作業療法士(仮:学校作業療法士)育成研修会(10/15・16)」の準備、②「仮:学校作業療法士」にかかる情報交換会(北海道ブロック)開催(9/11)、③発達障害児(通所系および訪問系)支援に関する体制の検討、④JDDnet人材育成研修会企画および運営協力、⑤就労支援(含む就労定着および復職支援)に係る情報収集および事例整理、⑥生活介護および自立訓練事業所OT/PT配置状況調査準備、⑦障害保健福祉教育領域の作業療法実践に関する情報提供者名簿作成、⑧就労支援フォーラムNIPPON2016(12/3~4)運営協力調整。

【福祉用具対策委員会】①「OT協会に属する福祉用具などに関する技術活用に向けた支援体制について」会議(9/3)、②「生活の工夫事例」の収集(神奈川県・福岡県士会とのモデル事業)、③IT機器レンタル事業の受付手配、④福祉用具相談支援システムの運用と改築。

広報部

【広報委員会】①「地域包括システムにおける作業療法士の役割」パンフレット完成。地域包括支援システム推進委員会から都道府県士会に配布予定。②広報誌Opera21号制作中。9日取材。21日会長対談下打ち合わせ。1件取材調整中。③映像版日本作業療法士協会50周年史完成し、9月25日50周年記念祝賀会にて上映。今後は、映像をホームページから閲覧可能にし、DVD化して都道府県士会、作業療法養成校に配布予定。④作業療法フォーラム講師等決定し、チラシ作成準備。

【機関誌編集委員会】9月号発行、10月号にむけ学会取材、学会特集等の編集作業。50周年記念式典・祝賀会の取材。11月号以降の企画立案・検討。

国際部

8日東アジア諸国との交流会の開催。9~11日、札幌学会における国際シンポジウム開催、国際部および台湾ブースの展示。台

湾作業療法士協会メンバーの施設見学調整・同行訪問。学会(2017年:東京)での国際シンポジウム開催に向けた調整作業。協会主催研修会の開催準備。台湾・日本間の学術交流に向けた調整作業など。国際部広報担当による「国際部INFORMATION」の企画、編集作業。

災害対策室

台風10号による災害に関する対応。第4回災害支援ボランティア研修会に向けた準備。熊本地震被災会員の会費免除申請に係る受付対応。大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)、国際医療技術財団(JIMTEF)への活動協力。災害支援ボランティア登録の随時受付。第37回JRAT戦略会議への出席。

47都道府県委員会

①第3回47都道府県委員会の開催、②47都道府県委員会運営委員会をWEB会議にて実施、③各ワーキンググループにて委員会に向けた検討、関連部署との調整、④地域作業療法支援班にて士会アンケート調査の回収、集計、⑤作業療法推進モデル事業の応募受付、申請士会との調整。

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会

3日次年度以降に向けた協議、意見交換会の開催。4日ビジネスモデル研修会を実施。11日札幌学会時、協会主催シンポジウムにおける登壇。14日制度対策部連携「生活行為の申し送り表による効果の調査」依頼・調査開始。17日制度対策部会出席。24日47都道府県委員会にて報告。MTDLP事例審査に関連する作業。基礎研修・事例報告者(発表者)の修了登録にかかる作業。多領域事例検証班による事例集作成に向けた準備。協会HP内・MTDLPページの作成。MTDLPヤシード許諾に関連する問い合わせへの対応。機関誌連載記事の編集。プロジェクトニュースの作成配信。生活行為向上リハ研修会講師派遣(他団体受託)。

認知症の人の生活支援推進委員会

①認知症作業療法推進委員会議(11/19~20)の開催に向けた準備、②第3回47都道府県委員会での情報提供、③アップデート研修の内容と実施方法を検討、④各班会議の開催。

地域包括ケアシステム推進委員会

①各士会で予定されている研修会への講師派遣対応、②47都道府県委員会(地域作業療法支援班)と連携し調査の実施、③第3回47都道府県委員会での情報提供。

運転と作業療法委員会

①運転と作業療法のガイドライン(仮)検討、②委員会の開催、③関連諸団体への渉外活動。

事務局

【財務・経理】平成28年度会費の収納管理。8月の出納管理業務。平成29年度収入予算案の理事会上程。会計処理規程細則(案)の作成。法人会計処理に関する事務局職員研修の実施。

【会員管理】新入会員の入会手続きをはじめとする入退会・異動・休会等に関する会員管理。会員管理システムをはじめとする次期協会システムの検討。会員名簿のあり方に関する理事会審議上程。

【庶務】三役会・常務理事会の資料作成・準備・開催補助。連盟事務局を協会事務所と同じ所在地に置く方策の具体的な検討・資料作成(継続)。

【企画調整委員会】『作業療法白書2015』の原稿作成・原稿整理、委託業者との調整(継続)。平成29年度重点活動項目に関する理事意見の集約と重点活動項目(案)の理事会上程。

【規約委員会】会計処理規程細則(案)の作成。

【統計情報委員会】次期協会システム構築に向けての検討。

【福利厚生委員会】第50回学会における「女性会員の協会活動参画の促進」シンポジウムの開催。

【表彰委員会】特別表彰・会長表彰の推薦依頼文書の作成・発信。

【倫理委員会】倫理問題事案の収集と対応。

【50周年記念誌編集委員会】書籍『協会五十年史』および附録DVD資料集の刊行・発送。

【50周年記念事業実行委員会】設立50周年記念式典・祝賀会(厚生労働大臣表彰式、感謝状贈呈式を含む)の準備・開催・後処理。

【国内外関係団体との連絡調整】大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)、リハビリテーション専門職団体協議会、全国リハビリテーション医療関連団体協議会(会長会議の開催)等々との連絡調整・会議参加・事務局運営など(継続)。

平成 29 年 5 月は役員改選

2 月のインターネット投票で各会員の意思を表そう

選挙管理委員会 伊藤 貴子

○役員改選は 2 年毎に行われる

当協会では、理事の任期は 2 年、監事の任期は 4 年と定めている。
平成 29 年度は、理事および監事の任期満了に伴う改選の年となる。

○改選となる役員

- (1) 会長（代表理事） 1 名
- (2) 理事 20 名以上 23 名以内（会長を含む）
- (3) 監事 2 名以上 3 名以内

○平成 29 年度役員改選のスケジュール（予定）

平成 28 年	12 月	役員改選の公示
平成 29 年	1 月	立候補受付の締切り
	2 月～3 月	インターネット投票〔役員候補者選挙〕の実施
	4 月	インターネット投票〔役員候補者選挙〕の結果発表
	5 月	定時社員総会…代議員による役員選任投票、新役員の決定 新理事による理事会…会長、副会長、常務理事の選定
	6 月	新役員の発表

インターネット投票 Q & A

Q. インターネット選挙とは何か？

A. インターネット投票とは、正会員による「役員候補者選挙」のことである。正会員全員に投票権があり、役員に立候補している人のなかで、役員に相応しいと思う人に投票するという選挙である。

Q. 「役員候補者選挙」とは何か？

A. 当協会は代議員制をとっているため役員を決める権利は代議員（法律上での社員）にしかなく、代議員以外の会員には法律上役員を決める権利はない。

しかし、当協会は創立以来、会員による直接選挙で役員を決めてきたという流れがあった。その流れを尊重かつ継続し、多くの会員の意見も役員選出へ反映させようとしたものが、この「役員候補者選挙」である。この役員候補者選挙の投票結果は、社員総会へ参考意見として提出し、代議員が役員を決める際の参考にしている。

Q. すべての役職が社員総会で決まるのか？

A. 社員総会で選任されるのは理事と監事である。会長、副会長、常務理事という役職については、総会で選任された理事の中から、理事会において選定される。

Q. どのような機器で投票できるのか？

A. インターネットに接続できる端末機であれば、パソコン、スマートフォン、携帯電話（従来型）などの種類は問わない。ただし、一部の機種（その端末機の製造年など）では接続できないことがあるので、その場合は別の端末機を使用してもらいたい。

Q. 大勢が使用するパソコンを使用しても大丈夫か？

A. 職場等のパソコンからも投票が可能である。会員一人一人に別々の ID・パスワードを配布しているので、同一パソコンから複数の会員が投票しても何の問題もない。ただし、投票した情報がパソコンのハードディスク上に残るため、履歴とキャッシュファイルを削除してからブラウザを閉じる方法をお勧めする。

Q. 選挙結果の報告はあるのか？

A. 役員候補者選挙の結果は、4 月に協会ホームページと機関誌に掲載する。

第50回 日本作業療法学会

去る9月9～11日、第50回日本作業療法学会がロイトン札幌、ホテルさっぽろ芸文館・ニトリ文化ホール、札幌教育文化会館の3つを会場として開催された。50周年という大きな節目にふさわしく、「半世紀の実績と将来への展望～日本の作業療法を拓く～」という、作業療法の過去と未来を俯瞰できる場であることを印象付けるものであった。台風接近の影響もあり参加者数は3,735名にとどまったが、一般演題は過去最多の1,569題であった。

さて、本特集は3つに分けた構成となっている。1つめは、学会参加者へ今学会に参加しての印象記。特に注目した点や発表、学会全体の印象などが、ご自身の視点から述べられている。2つ目は、参加者へのインタビューである。学会の2日目、3日目に参加者へお声をかけさせていただき、ざっくばらんなお話を伺った。今学会では、全国学会開催時期の変更、学会アプリの導入、スペシャルセッションや英語セッション、そして作業療法関連学会企画セミナーの開催など、今学会が初めてとなる企画も多数あったが、本特集の印象記やインタビューの中でそれらに触れられているところにもぜひ注目していただきたい。

最後に、次期学会長である小林正義常務理事へのインタビューを掲載している。予習の一環として目を通していただき、皆様が東京で開催される全国学会へ足を運ぶきっかけとなることを心より願っている。
(機関誌編集委員会)

私の学会印象記

ようやく市民権を得た 作業に焦点を当てた実践



社会福祉法人 ユームツ会 青潮園 友利 幸之介

ごくごく個人的な印象を述べます。私は記念すべき50周年となる全国学会で、ようやく作業に焦点を当てた実践（Occupation-based practice; OBP）に「市民権」が得られたことを実感しました。私はOBPが作業療法の主流になってほしい、などと大それたことは思っていません。しかしかつては、患者さんと面接をしていると「話してばかりいないで訓練して」と言われたり、大切な作業を特定して手工芸やカラオケなどをしていると「遊んでいる」と言われたり、いわゆる機能訓練以外の作業療法が軽視される時期がありました。もちろん短絡的なOBPもあるかもしれませんが、まず否定的な概念が先行しない程度に、「それも作業療法だよ」と言わ

れる程度の「市民権」がほしいと思っていました。

私が今回、市民権を得たと実感したのは、まずモーニングセミナーにおいてです。作業療法関連学会の紹介として、私も理事を務める日本臨床作業療法学会で卒をいただけたので、「生活行為向上マネジメント、熟考」というテーマで、OBPにおける面接、観察、分析、介入、連携のポイントを理事らで概説しました。学会開始前にもかかわらず多数のご参加をいただき、立ち見（地べた座り）でも入りきらず、とうとう会場に入場制限がかかってしまいました。もちろん生活行為向上マネジメントをテーマにすることで多くの聴衆が集まったとは思いますが、それでもOBPに対する関心が高まっていることを壇上でひしひしと実感しました。

次に、研究発表です。OBPが市民権を得るには信念や理論だけでは不十分で、私は数年前からいくつかの研究に取り組んでいます。今回は、元ゼミ生が「クライアント中心及び作業に基づいた実践の作業療法の効果」と題して、OBPのシステムティックレビュー（浅葉由美恵さん）とメタアナリシス（大野勘太さん）、「回復期リハビリテーション病棟入院中の脳血管障害者に対する

トップダウンアプローチの費用効果分析」(長山洋史さん)などを発表しました。これらはいずれもエビデンスレベルの高い研究です。総括としては、いずれも OBP には通常の作業療法と比べて、セルフ・エフィカシーや QOL に若干の効果が認められました。しかし OBP 群には効果にバラツキが大きく、介入やアウトカムをどのように統制するのか、課題が浮き彫りとなりました。この演題にも多くの方が集まってくださり、熱心に質問されていました。

国際シンポジウムは、「いかに作業療法実践を高めるか? 原点に戻ろう」というテーマでした。英語の勉強と思って聴講したのですが、偶然にも内容は OBP でした。作業療法の信念に基づき、理論と研究の検証を続けることが大切であると Skidmore 准教授は強調されていました。OBP を実践するために、Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) というトップダウン・アプローチが紹介され、この CO-OP で介入やアウトカムを統制することで、大規模なランダム化比較試験も進んでいるようです。われわれの研究より数歩も先を行く内容で、身が引き締まる思いでした。

最後に定義改定のシンポジウムです。私も定義改定委員として登壇させていただきました(改定作業は、個人的な OBP の興味関心は一切捨てて中立的に行っています!)。学会最終日、日曜日のプログラムにもかかわらず、多くの方がご参加くださいました。第3草案は、「作業療法は、作業を通して人々の心身の健康や社会参加を促進するため、保健、医療、福祉、教育、就労などの領域で行われる指導、治療、援助である。作業とは、個人や地域社会にとって価値や目的をもつ、日常生活活動、仕事、趣味など日々の活動を指す」で、これに注釈が加わります。会場からは、作業の定義に関する質問が多くあり、関心は「作業」にあると実感しました。

このように、ごく個人的な印象ですが OBP も市民権を得たと感じました。何事も“絶対”などなく、OBP が作業療法のメインストリームになってほしいとは思っていません。社会情勢に柔軟に適應できる多様性こそが作業療法の強みでもあります。その豊かな土壌が整いつつあることを、50 周年を迎える本学会で実感することができたのかもしれません。最後になりますが、本学会から協会主導の運営となり、運営スタッフはかなり少なかったと聞いています。関係者にはかなりのご苦労もあったかと思います。感謝申し上げます。



台湾作業療法士協会のブース

出会いの数々

～第50回日本作業療法学会 in 札幌
に参加して～



上伊那生協病院 橋場 美樹

今年は例年に比較して台風が多く、北海道でも台風被害が起きていた。第50回日本作業療法学会 in 札幌へ向かう私と後輩達は出発日に台風が接近する予報に怯えていた。幸い、当日は羽田も札幌も曇り。それまでの悪い予想を覆し、学会期間中は小雨に留まり、過ごしやすい気候だった。

今年の学会は半世紀を経て新たな時代に向かうべく、抄録集を事前郵送せず、学会アプリによってプログラムなどをダウンロードできるという画期的な手法が行われた。アプリから簡単にプログラムを検索でき、自分のスケジュールが立てられる。何時にどこへ行けばいいのか、セッションの抄録もすぐに見ることができ、大変便利であった。時代の変化を感じつつ、運営スタッフの道案内や、3つの会場入口に置いてあった貸出自由の傘に、時代はどんどん進化しても人の温かさは変わらないと安堵した。

今年、私は自動車運転についてのポスター発表を予定していた。座長の依頼とポスター発表の時間帯が全く同

じだったため不思議に思ったが、同じセッションを前半後半に分けて行うという形式だった。発表と質疑応答で5分というタイトな時間設定だったが、大勢の方に一度に発表を行え、発表後はそれぞれにディスカッションができたため意外と良かった。

今年、自動車運転に関しての演題はとて多く、運転と作業療法研究会のナイトセミナーでも昨年までの学会と比較して自動車運転の演題が増えているとの報告があった。当院では2012年から自動車学校と連携して運転評価を実施している。まだまだ様々な課題があり、今学会で学んだことから評価プログラムの見直しに着手しようと思っ

われわれ作業療法士は、人と作業と環境を総合的に評価して介入する。けれども自動車運転に関しては、人と作業（運転）についての評価は深まりつつあるが、環境についてはまだまだ評価が足りないと感じた。都会で求められる運転技能と田んぼ－自宅の往復をする人とは、求められる運転技能はやはり違う。そして、免許を返納した場合、田舎では、本数がかなり少ないバスや電車を自動車の代替手段として考えるのは難しい。田舎暮らしの作業療法士として、今後はその部分をどう検討できるか、焦点を当てていきたいと思った。また、講師の藤田佳男先生が言われていたように、評価の報告が多く、治療についてはまだまだと実感した。マイカーが普及した世代と出会うことが増えていくこれから。この分野について知見を深めていきたいと改めて思った。

そして自動車運転の他に注目していたのが生活行為向上マネジメント（MTDLP）だ。日本臨床作業療法学

会のセミナー「生活行為向上マネジメント、熟考」で印象的だったのは、目標は同意ではなく合意が大切。合意という言葉に意味があると改めて説明してもらったことだ。今まで当たり前に目にしてきた「合意目標」という言葉、その言葉の深さ、尊さを改めて感じ、襟を正す気持ちになった。シンポジウム「生活行為向上マネジメントー地域生活につなげる作業療法の実践」では身障・精神・小児から事例の報告があった。義手で鉄棒ができた女の子の映像を見ながら素晴らしい仕事をされていると目頭が熱くなった。

今回の学会でも小さな子どもを連れた若い女性作業療法士を数名見かけた。子育て世代の女性が多い作業療法士。私も子育てと仕事の葛藤の中で悩み、苦勞を感じたこともあった。2004年、長野で開催された全国学会以降、2014年に横浜で開催されたWFOT大会・全国学会まで全国学会は参加しなかった。一人目まではなんとか預ける・連れて行くことができていたが、さすがに3人ともなるとどうにもできず、遠くの研修会には参加しにくい時期があった。その中で全国学会というものに気後れする自分もいた。けれども横浜WFOT、神戸、札幌と全国学会に参加して思ったことは、職場や自分の周りではある程度知っている情報に偏ることが多いが、演題だけで1,500以上が集まる全国学会こそ、今の全国の作業療法士が考えていること、取り組んでいることを網羅することができる。そして参加している人みんなが目の前の対象者のことを思い、苦悩し、模索し続けていることを実感する。都合に合わせて出入りもしやすい全国学会こそ子育て世代の作業療法士に参加を勧めたい。

たくさんの演題や情報との出会いの他にも多くの作業療法士との出会いや再会があった。文献を何度も読み、こちらは知った気になっている著名な方、研修会で意気投合した、苦悩も共感し合える人たち、情けない自分も全部知っている恩師・同級生、そして各地でがんばっている初めて出会った人たち。そんな全国学会での出会い・再会にパワーをもらおう。

さあ、できることをひとつずつがんばろう。



学術誌『作業療法』第34巻
最優秀論文賞および奨励賞の表彰式

学会参加の魅力とは



初台リハビリテーション病院 阿諏訪 公子

第50回日本作業療法学会が北海道札幌市で盛大に開催されました。隣接した3つの会場を絶妙なタイムスケジュールを頼りに走り回り、贅沢な時間を過ごすことができました。今回、学会会場で機関誌編集スタッフさんからお声をかけられたご縁から、所感を述べさせていただきます。

私は作業療法士歴13年目で、生活期での訪問リハビリテーションに従事しております。全国学会への参加は3年前の第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法士学会（以下、WFOT大会）から今回で3回目です。WFOT大会での口述発表は、日本作業療法士協会国際部の英語スライド作成に関する研修会を受講していなければ不可能でした。発表の経験だけでなく、海外の作業療法士の壮大な研究報告に圧倒された記憶は鮮烈に残っており、現在の私の原動力となっています。この体験から、全国学会の一番の魅力は、現在の国内の作業療法の潮流や海外の作業療法的一端を知ることができることだと思っています。

このようないきさつもあり、国際シンポジウムは学会開催前より楽しみにしていたプログラムの一つでした。まず、アメリカのElizabeth Renee Skidmore先生から、作業がもたらす治療的な効果に着目し、その客観的效果のデータが示されました。このデータから、これからの作業療法は原点回帰するべきだと、作業療法のあり方を見つめ直した提言がなされました。この提言は、まさに3年前のWFOT大会にて多くの海外の研究者が研究していた作業療法の費用対効果の研究を支持・発展するものでした。そして、WFOT理事でシンガポール作業療法士協会のHua Beng Lim先生は、シンガポールにおける作業療法士の質を担保するためのシステムなどをお話されました。このシステムは自らに責任を課すことで職域を守るだけでなく、利用者自身が望む作業療法士の技量を、対象者側へ明確に提示することにもつながっていました。個人的には認定作業療法士として、まだまだ鍛錬が足り



協会国際部のブースも出展

ない現状を突き付けられた気がしましたし、職能団体としては、義務と権利のバランスが大事であると再認識しました。

当法人は基本的に365日稼働しており、当院のみだけでなく70名弱在籍していますので、在籍している作業療法士すべてが同時に学会に参加することは困難な状況です。そのため、留守を預かってくれた仲間へ、現在の作業療法のトピックスや新たな知見を踏まえた提案を行うためだけでなく、発表と聞くだけで逃げ出しそうになる仲間を支援するうえでも、学会への参加は寄与すると考えています。この責務を果たすため、旧友や恩師との再会を懐かしむ暇がないほど、口述およびポスター発表やセミナー、シンポジウム…と、私の聴講スケジュールは過密でした。日頃の臨床疑問は誰かが研究している、と言っても過言ではないほど、臨床に根ざした発表ばかりで大変勉強になりましたし、発表の中のいくつかに関しては、追加研究や論文化が今から待ち遠しいほどです。また、施設内での研究グループにおける院内の取り組みの成果報告もあり、当院でも実施している研究グループの今後の活動における良い手本となりました。さらに、自分の発表経験も含め、直接参加者と意見交換ができたことは意義深いものでした。

私自身が本年度、日本作業療法士協会の生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）暫定ファシリテーターを拝命していることや、当院においてもMTDLPの活用する動きがあるため、私の先入観もあるかもしれませんが、MTDLPを活用した発表が演題区分以外でも散見され、注目度の高さがうかがわれました。事例研究では、MTDLPがニューロリハビリテーションでも、環境等の代償手段における介入においても活用できることが示されていましたし、MTDLPを有効に活用するため

の提言も多数ありました。さらに、MTDLP 関連を扱ったセミナーは、入場制限がかかるほどの大盛況でした。MTDLP が ICF の観点から整理・評価し、われわれの介入の基礎へ定着しつつあることが、これらの集約で示すことができると考えます。

最後に、学会運営に携わってくださった、すべての関係者の皆様のご尽力に心から感謝いたします。来年は地元の東京での開催です。仲間と共に参加し、多くの方々との出会いや再会への期待を膨らませながら、筆をおくこととします。

第 50 回日本作業療法学会を終えて



道央佐藤病院 大谷 嘉範

3会場での開催

新千歳空港から車で約 1 時間。2016 年 9 月 9 日（金）～ 11 日（日）にロイトン札幌、ホテル札幌芸文館・ニトリ文化ホール、札幌市教育文化会館の 4 会場にて開催された第 50 回日本作業療法学会に参加した。北海道で全国学会が開催されるのは、25 年ぶりであった。

自分の中でテーマを決めて参加する

私は札幌市から車で約 2 時間、苫小牧市でもっとも病床数が多い精神科病院に勤務している。以前は認知症治療病棟にて作業療法に従事しており、現在は包括支援センターでの健康予防教室や、認知症予防教室、認知症カフェ、デイサービスなど地域社会にて予防的観点の作業療法に従事している。

厚生労働省の 2015 年 1 月の発表によると、日本の認知症患者数は 2012 年の時点で約 462 万人、2025 年には 700 万人と推計されている。また、総務省の 2015 年 9 月の発表によると 65 歳以上の高齢者は 3384 万人と推計されている。病院勤務や地域社会での勤務を通して共通して認知症の方や高齢者の方にひとつだけ感じるがあった。それは、やりたいこと、困っていることを聴取するのが困難なケースが多いことである。直接やりたいことを突然聞かれると誰しも返答に困ることであり、そ

のために生活行為向上マネジメント（MTDLP）における作業聞き取りシートであったり、興味関心チェックシートが存在する。ただ、それらを使用しても、最終的には年齢的な理由、認知症症状の重度化、表出困難など様々な理由からやりたいことや困っていることの聴取に難渋するケースが多い。今回の学会では自身の発表も含めて「やりたいこと」「生活行為目標」「意味のある作業」をどのように聴取し、作業療法に展開していくかがテーマであった。口述発表やポスター発表では作業療法カウンセリングの使用、ADOC、認知症高齢者の絵カード、高齢者版余暇活動の楽しさ評価表、色カルタなど様々な方法を用いて「意味のある作業」に展開する報告をいくつも聴講することができた。聴講を通して感じたことは、やはり作業療法の強みである柔軟性である。様々な手法を用いながら作業療法を展開していく。ひとつの理論や方法にこだわるのではなく、様々な方法を用いて対象者に適した作業療法を展開していく、これこそが私が求める作業療法の形ではないかと改めて強く感じた。スペシャルなジェネラリストでいたいと感じる時間でもあった。

シンポジウム「これからの認知症 OT のかたち」

シンポジウムでは「これからの認知症 OT のかたち」を聴講させていただいた。印象として強く残ったことは、“複雑化する社会背景や家族背景にどう対応していくのか？”介護職員の困り事・家族の困り事に対して、他職種、家族と協業することの重要性を再認識できた。また、作業療法士は“何ができるのか”を情報発信していくことが病院・施設・地域における認知症に関わる全ての作業療法士に必要なことではないかと感じた。私自身、情報発信が苦手であるため、弱みを感じつつ今後の糧にしていきたい。



口述演題の会場

再び出逢う、そして新たな出逢いに感謝

本学会を通して、多くの出逢いがあった。以前、認定作業療法士研修会でお会いした先生方や受講者、同期や後輩との再会、そして新しい出逢い。人と人のつながりは本当に大切であり、出逢えたことで元気になれる。“出逢い”という作業を通して人は元気になれると感じた。

おわりに…

市民公開講座の「脳機能から考える健康・老化」で東京大学の池谷裕二先生が脳機能の観点から「その人らしさ」について、「人は“人らしさ”を勘違いしている」という言葉が印象的だった。講演の中でもあった人工知能の有用性、一方では脳機能からもわからない「その人らしさ」を作業療法士は追求していく必要があるのではないかと感じた。生活行為向上マネジメントの“30センチの物差し”ではないが、自分の手の届く範囲の対象者から、365日24時間その人らしく生活ができ、主体的な生活行為ができるように今後も支援していきたいと強く感じた。

第50回日本作業療法学会に参加して



藤田保健衛生大学 保木本 のぞみ

2016年9月9日（金）～11日（日）、北海道札幌で開催された第50回日本作業療法学会に参加した。日本に作業療法士が誕生して51年目、第50回という節目の学会にふさわしい、「半世紀の実績と将来への展望－日本の作業療法を拓く－」という学会テーマが掲げられていた。今年度から、開催時期が6月から9月に変更となり、講義のない時期に開催されるということで本学のほとんどの教員が演題発表や座長などで参加した。

私が従事する大学は開設当初より臨床実習を重点化した教育を行っており、私は教育のセッションで臨床実習評価の分析についてのポスター発表を行った。セッション全体の雰囲気が和やかで、質疑応答しやすい印象だった。発表時間は質疑応答を含めて5分と非常に短く感じられたが、発表の前後に座長の先生方や他の発表者の先生方と発表内容や各校の教育の取り組みの状況などにつ

いてお話ができたことは非常に有意義であった。本学も導入のために検討を重ねているクリニカルクラークシップを取り入れた臨床実習について発表された先生からは、導入した際に苦労されたお話や導入状況なども伺え、非常に参考になった。また、同じセッションには、私が病院勤務時代にスーパーバイザーを担当した学生が教員となって発表した演題もあり、後輩に負けていけないと身が引き締まる思いもした。作業療法を将来へと繋げ、支えていく大きな力となるのは、作業療法士を志す学生や経験年数の少ない作業療法士たちである。彼らが質の高い臨床技能を身につけるための臨床実習のあり方、卒前卒後と一貫した教育の仕組みを試行錯誤して検討していく必要性を改めて考えさせられたセッションだった。

聴講したプログラムの中で特に興味を持ったのは、スペシャルセッション1の演題発表だった。スペシャルセッションの演題は発表時間が15分であり、演題内容を深く理解することができた。また、多くの聴講者が質問しやすいよう質疑応答の時間も多くとるなどの配慮がされており、活発な意見交換がなされていた。発表内容は、末梢神経連続パルス磁気刺激を上肢機能訓練に取り入れた効果についてだった。従来の磁気刺激装置は装置が大きく、長時間の電気刺激が困難なため、骨格筋に対しては電気刺激が用いられてきたが、発表では軽量化されたうえに長時間刺激できる磁気刺激装置が紹介されていた。また、臨床でよく使用されている電気刺激では疼痛を伴いやすく、その疼痛によって筋活動電位を抑制しやすいとのことだったが、磁気刺激では少ない疼痛で標的とする筋の大きな収縮を得ることができるとお話されていた。発表の中で提示されていた症例も著しい機能向上を認めていた。この演題では、最新の機器を用いた治療について情報を得ることができ、さらなる症例の報告が期待された。

学会終了後の夜には、本学の教員だけでなく大学病院職員や、以前本学にいらっしゃった懐かしい先生方を招いての食事会も行われ、北海道の新鮮な特産物を堪能しながら、最近従事している作業療法や学生教育について情報交換を行うことができた。

本学会は、日々の自分の職務を振り返り、教育や臨床を見直す良い機会となった。また、同じ悩みを抱える多くの先生方と交流し、繋がることができたのは大きな収穫だった。来年の学会にもぜひ参加し、何らかの発信ができるよう日々の学生との関わりや臨床、研究を丁寧に行っていきたい。

学会参加者にインタビューしました

学会の参加者の方に、ご自身が普段の業務や今学会の目的やどのように見て回っているかなどについてインタビューしてみました。お話を伺った皆さんは、ほとんどの方が発表をされていたので、その準備や発表本番前後のことなども聞かせていただいています。これから学会で発表をしてみようと考えている会員の皆様にとっても、参考になる部分は多いのではないのでしょうか。

発表者として、
そして座長として



埼玉県立大学 小池 祐士さん

作業療法士 10 年目の小池さん。作業療法士 2 年目から毎年学会に参加し、学会参加時にはほぼ発表を行っているそう。今回はポスター発表をされ、同時にポスター発表の座長も務めたとのこと。

——今回のポスター発表の内容をお教えてください。

小池：今回は、以前関わっていた介護予防事業の取り組みの効果について発表させていただきました。現在は埼玉県に勤めていますが、以前は青森県に勤めていました。その時、大学院（弘前大学大学院）にも通っていて、その指導教員が携わっていた介護予防事業と一緒に参加していたので、その取り組みの効果についてまとめたものです。内容としては、私の指導教員が考案した「てんとう虫体操」という「転倒無視」から名付けた体操を介護予防事業に取り入れた効果について検討しました。また、ただその体操を実施するだけでなく、介入初期の問診と評価から、利用者さんの要望や問題点を踏まえたプログラムの立案や体操の難易度の調節など、利用者さん個々への介入を組み込んだ取り組みの効果について紹介しました。

——では、参加者としては「地域」というトピックを中心に回っているのでしょうか？

小池：そうですね。地域性が高い青森で働いていたということもありますが、作業療法士としても興味のある分

野です。現在は、埼玉県作業療法士会の地域包括ケア推進委員会の委員として、地域ケア会議や介護予防事業に関する研修の企画運営を手伝わせてもらっています。また、協会主催で行われた「地域ケア会議に資する作業療法士人材育成研修会」にも、各都道府県から 2 名という枠の中で参加させていただきました。埼玉に来てからも、このように地域に触れる機会を与えていただき、とても感謝しています。

——初めてポスター発表をしたときのことを思い出すと、いかがでしたか？

小池：初めてポスター発表をしたときは作業療法士 2 年目で、大学時代の卒業研究のテーマを発表しました。大学院に通っていたので大学の先生方に指導をしていただいたのですが、昼間は私が臨床に出ていたため、夜間に指導してもらいました。また、初めての発表で慣れなかったこともあり、緊張することやうまく説明できないことが多々ありました。そんな状態でも、大学の先生方が何度も何度も発表練習に付き合ってくれ、そして細かく指導してもらったことを覚えています。その頃は辛かったこともありましたが、経験を重ねるにつれて、だんだんと先生が言いたかったことがわかってきたように思うので、あの頃指導してもらえたことは本当に良かったと思っています。今は、先生方が教えてくれたことを私も後輩や学生に少しずつ伝えていきたいと考えています。

——今回、ポスター発表で座長を務められたのですね。

小池：学会で座長を務めるのは初めてだったのでとても良い経験をさせてもらいました。座長として心がけたことは、時間配分を守ることと、発表していただいた方に対して前向きなコメントをするようにしたこと。時間配分に関しては、発表者も残り時間がわかるように iPad を使って時間を表示させました。そうすることで、発表時間の後半になると発表者自身が自主的にまとめて

くれ、時間を超過することなく円滑に進めることができました。コメントに関しては、発表者が「今回発表してよかったな」「また来年も発表したいな」と思ってもらえるようなコメントをするよう意識しました。

——来年の全国学会（東京）には参加予定ですか？

小池：ぜひ発表をしたいと考えています。年明けの演題締め切りに焦点をあて、それまでにデータの収集、解析をしていこうと思っています。

参加者との交流が 学会の醍醐味



静岡県立こころの医療センター 大塚 昭宏さん

単科の精神科病院に勤務する大塚さん。作業療法士歴11年目で、これまでも学会に参加したことはあるが、今回初めてポスター発表を行ったとのこと。参加者との交流の時間をとても大切にされている様子がうかがえました。

——昨日、ポスター発表を終えたそうですが、どういった内容だったのですか？

大塚：テーマは「ソーシャルフットボール」で、精神障害のフットサル活動の効果について発表しました。フットサル活動によって患者さんが自信を取り戻し、社会生活技能を高め、そのステップがうまくいって、仕事を始めることにもつながったんです。「僕なんか…」と自信のなかった人が、最終的にはもっとがんばりたい、これをやりたいと、活動が広がったという取り組みを紹介しました。

発表を聴きにきているのは精神科の人が多かったと思います。知り合いも多かったですし、精神科のポスター演題を全体的に見て回っているという人も結構いました。

実は今回が初めての発表だったのですけど。

——どうして発表しようと思われたのでしょうか？

大塚：年に1回は自分に負荷をかけておきたい、目標を置いておきたいと思っていて。それで、これまでは静岡県の学会の運営に携わっていましたが、今回は自分の知

識を高めたいと思ったので学会で発表をすることにしました。学会に来るといろいろな人と出会えてつながりが増えるし、新しい話も聞けて勉強になるので、発表してみても良かったです。

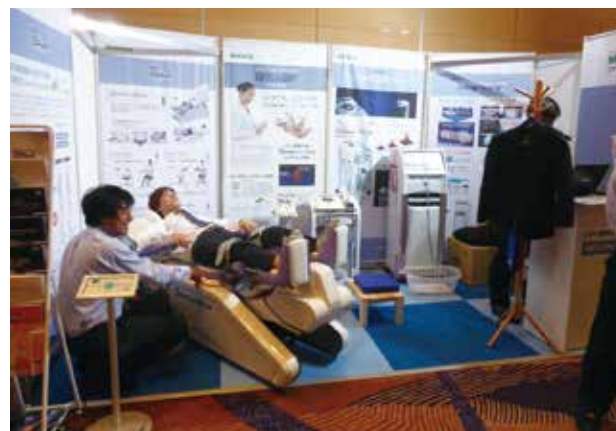
——積極的に参加者と交流されているんですね。発表以外の時間はどう過ごされていますか？

大塚：意識して「交流しよう」とは思っていないんですが、話したいな、と思うとごく自然に話しかけています。発表者に質問もしますし、「さっき、発表していましたよね」と話しかけたりもします。行ったこともない場所から来ている人たちと知り合いになれるので、いいですね。

発表以外の時間は、精神科を中心に、ポスター発表と口述演題を回っています。事前に学会プログラムのPDFを印刷してスケジュールを立てましたが、なかなか予定通りには動けないですね。でも、今回はここ（芸文館）が精神科の会場としてまとめられているようで、建物の中で移動しています。建物間の移動がない点は楽でした。

昨日は北海道の作業療法士の友人に会って地元のお店に行き、他団体の交流会にも参加してきました。名刺がすごく増え、僕の名刺がすごく減りました。

——名刺は多めに用意したほうがよさそうですね。



機器展示会場では多くの出展企業を見て回れる

学会ならではの出会いや再会



柳川リハビリテーション病院 松本 健太郎さん

作業療法士4年目。作業療法士2、3年目の時に大学院で学び、今年は初めての学会で、さらに初めての北海道来訪でもあったそうです。初めてのポスター発表を終えた直後の松本さんに、発表内容や準備のことなどをお聞かせいただきました。

——初めての発表だったそうですが、準備は大変でしたか？

松本：ポスターの作成自体には2～3週間ほどかかりました。元々お世話になっている指導教員の先生に目を通していただいて、修正を加えていく、という流れでした。学会参加経験のある臨床の先輩たちからノウハウを教してもらって作成していきました。内容は基礎研究で、「成人の健常者を対象とした利き手交換」がテーマです。もともとは修士論文で取り組んだ内容ですが、脳卒中関連の現場で目の当たりにしている事柄について、「握り方」に注目して研究しました。

発表時間の前に早めに来ていたので、ポスターを見ている人に話しかけてみて、そこで質問を受けたり、「臨床で、こういうことが困るよね」「なんだかうまくいかないんだよね」というような共感の言葉をもらえることもありました。言葉を交わした人は回復期の方が多く、僕自身も回復期で働いているので、僕だけでなくみなさんが同じようなジレンマを持っているんだなと思えました。

——発表以外の時間にはどういうところを中心に回っていますか？

松本：今回、演題数がすごく多かったので、事前に学会アプリの検索機能を使って、見るところを絞って行きました。たとえば「脳卒中」や「CCS」（クリニカルクラクシッ）といった興味のあるワードで検索するだけでなく、選択するとさらに抄録が読めるようにもなっていたので、詳細に読んでいくことで興味を持った発表もありました。自分自身の臨床に近いテーマを絞りながら見て回っていますが、いろいろなポスターを見て回って



基調講演

「内部障害者の生活を支える作業療法；実践に何が障壁か、普及促進への戦略」

ると構成や見やすさなども勉強になります。

——学会に来て良かったことは？

松本：知らなかった人もそうですが、日頃会えない学校の先輩方や先生方にお会いできたことです。僕が大学院のことを相談したり、何かとお世話になっていた先生は異動され、なかなか会う機会がないのですが、昨夜お会いすることができました。宿泊先も遠くなかったので、多少夜遅くなくてもじっくりお話をできたのも、こうして集まる機会があったからこそだと思います。同級生とは同窓会などで会えますが、上下の年齢の人とは会う機会も限られます。学会があるからこそ初めて北海道にも来られて、それも良かったところです。



発表にまつわる苦労は…

介護老人保健施設あいぜん苑 佐藤 晃太郎さん

作業療法士歴13年目の佐藤さん。ポスター会場で熱心にポスターをご覧になっているときにお声掛けしました。全国学会に何回か参加していて、参加するときは毎回発表をしているのだとか。

——どのような発表を見て回っていますか？

佐藤：いろいろなものを見て回っています。主に興味・関心があるものですが、それだと特定の領域やテーマに偏ってしまいます。せっかくの機会なので、できるだけいろいろな領域やテーマの演題発表を見たり聴いたりして、知見を広めようと考えています。また、私は評価法の開発に関する研究をしているので、それに関連する研究手法を用いた演題にも注目して回っています。

——今回も佐藤さんは発表をされたのですか？

佐藤：はい、理論・基礎研究のカテゴリーでポスター発表をしました。内容は、開発した評価法の臨床的意義について質的に分析したというものです。大学院の博士課程で評価法を開発する研究をした経緯があり、その研究を現在も続けています。今回のポスター発表は、大学院修了後の研究の経過をまとめたものになります。

その評価法は、簡単に言うと、日々の生活行為がどのように関連し合っているかを明らかにしようというものです。主対象者は健康な高齢者あるいは通所系サービスを利用している高齢者です。評価法の試作版は完成し、論文を執筆しているところです。そして、作業療法の臨床での活用、対象者への介入研究などにも取り組んでいるところです。介護予防や通所系サービスにおいて有用な評価法だと考えていますので、興味のある作業療法士の方には是非とも活用していただきたいと考えています。

本学会のポスター発表の発表時間は3分でしたが、短

い時間で簡潔に説明するのは少し大変でした。3分間の発表だけでは内容を十分に伝えきれず、その後の質疑応答で具体的に説明することができたと思います。発表のときには知人や同級生も見に来てくれていました。

——学会で大変だと思うことは何かありますか？

佐藤：長時間歩かないといけないことと、革靴を履くことです（笑）。通勤などの普段の移動はほとんどが車であるため、あまり長い距離を歩くことはありません。だから、こういった学会や研修に出掛ける時は、長い距離を歩くのが一番の苦痛です（笑）。革靴を履き慣れないので、足の裏は痛いし、マメはできるし…。でも、学会は運動不足解消の機会にもなっていますね。



来年のポスター発表に向けて

かなえるリハビリ訪問看護ステーション 竹田 玲奈さん

竹田さんは、訪問リハビリテーションに携わっている1年目の作業療法士。来年、全国学会での発表を行うことを主な目的として今学会に参加されたそう。すべてが初めて、という中で奮闘されている竹田さんに、まずは日常業務のことから教えていただきました。



書籍展示では多くの作業療法関連の書籍を目にし、購入することができる

——まず臨床のことから聞かせてください。1年目から訪問リハビリテーションに携わろうということとはご自身で決めていたのですか？

竹田：訪問を選んだきっかけのひとつは、地域包括ケアシステムの構築推進などの国の動きを見て、地域の力が今必要とされているのかなと思ったことです。周りの人の進路は病院だったので、最初から地域に出ることには不安もありましたが、実際に訪問リハビリテーションを見学したときに、訪問をしている作業療法士の方の「私も1年目から出ているけど、勉強する内容は何年目でも一緒だから、最初から訪問に出ても大丈夫だよ」という言葉に後押しされて、やっぱり訪問に進も

うと決めました。

訪問には1人で出ていて、「これでいいのかな？」という不安もあります。でも、不安があるからこそ勉強のモチベーションになるし、利用者さんと関わっている時間が今一番楽しいです。利用者さん宅に毎回悩みながら行き、帰ってきたときには「次もがんばろう！」と元気になる。その繰り返しです。

——今回の学会参加も、勉強の一環としてでしょうか。

竹田：そうですね。普段は、研修会や、他の病院が主催している勉強会を調べて参加したりしています。学会には、今年は会社の中からセラピスト1人が出張という形で参加させてもらえることになり、「来年発表するのなら、行ったらどう？」と声をかけてもらって参加できることになりました。

——初学会参加の前に、来年の学会で発表するとすでに決めていたのですか？

竹田：もともと、上司がよく「若い人にどんどん発表してほしい」と言っていて。私は発表が好きじゃないんですけど（笑）、避けては通れないので、「やってみます！」と手を挙げたんです。他の人の発表をただ聴いているぶんにはいいのですが、自分の発表テーマを決めるために聴こうとすると難しく感じてしまいます。

——興味のあるテーマの中心は「地域」でしょうか。また、発表の参考にしよう、という気持ちでポスター発表などを見ているのですか？

竹田：まだ私の発表のテーマは決めていないのですが、

括りとしては「地域」になると思います。だから、口述演題やポスターでも「地域」と、「高齢期」「MTDLP」を中心にしています。

ポスター発表では、みなさんが「はじめに」をどう書いているのがすごく気になっています。大学で研究をしていたときは基礎研究や実験が多く、臨床の治療として考えたことはありませんでした。日常業務の目的は実験や研究ではないので、その普段の関わりを発表のために組み立てていくのが難しいと感じていて。だから、他の人の発表の中では、導入をどのようにしているか、どうしてその研究をしたかというところに興味があります。

また、どのような研究が多いのかも広く見て回っています。「自分が発表したいことではなく、みんなが必要としていて、みんなの役に立つことを発表しないといけない」と教わったので、国や作業療法士から今どういうことが求められていて、どう考えたからこの研究をしようと思ったのか、というところを見るようにしています。

——最後に、学会に参加してみてよかったことは何でしょう？

竹田：完璧にまとめて組み立てて発表しないといけないということではなく、臨床で行っていることをわかりやすく伝えて情報共有できたらいいのかな、と思えたことです。日頃、自分が考えたり取り組んだりしていることを、自分の中にとどめておくのではなく、みんなに知ってもらおうという気持ちで発表しようと、少し肩の力が抜けました。

次期学会長にインタビューしました

ぜひ来年の全国学会（東京）に来てください

小林正義常務理事にインタビューを行ったのは、学会が終了して1週間後のこと。次年度の学会プログラムの骨組みや学会テーマが理事会で審議・承認された直後に、来年の全国学会（東京）の狙いやプログラム構成、そして意気込みなどについて語っていただきました。



次期学会長・常務理事 小林 正義

——まず、来年の東京での全国学会のテーマをお聞かせください。

小林：第51回のテーマは「作業療法の挑戦—多様化するニーズに応えるための理論と実践」に決まりました。作業療法の領域は、医療にとどまらず、介護予防や地域包括ケアシステム、就労支援など、いっそう広がっています。医療、地域、障害福祉それぞれは個別に存在しているのではなく、ベースには作業療法の理論がある。そして作業療法の研究には、臨床研究、地域住民の作業ニーズを明らかにするような調査研究、作業をするこの意味や価値を探究する質的事例研究、そして作業療法の評価の開発、支援機器の開発といったさまざまな可能性があります。理論と実践をもう一度見直し、多様化するニーズに応えていこう、時代の要請を踏まえつつ新たな50年に向かって作業療法の可能性をさらに発展させようというのが東京学会のコンセプトです。

——決まっている範囲で、学会プログラムをそれぞれご紹介いただけますか？

小林：正直なところ、まだプログラム等について確実なことは何も言えませんが、まず市民公開講座は、大野裕先生（認知行動療法研修開発センター）を講師としてお迎えして、仮題ですが「日々の生活に活かす認知行動療法」というテーマで講演をお願いしています。認知行動療法を簡単に説明すると、「自分の悪い思考パターンに気づいて考え方の幅を変える。そしてプラスの思考過程に変えて行動を広げ、元気を取り戻してもらう」という治療法です。もとはうつ病の方に対して始まった精神療法が、今非常に注目されている。この考え方を市民レベル、国民レベルで活用してもらいたい。あまねく作業療法士に、認知行動療法の考え方が有用であると示したいと考えています。

シンポジウムは3つ決まっています。まず、「作業療法理論を活かす（仮題）」。超高齢社会である今の日本では、国民全体が地域包括ケアに向かって進んでいかないといけなく。その課題に対して作業療法の理論をどう活かせるか、学会テーマである「理論と実践」の「理論」の基本を押さえるような内容をお願いしています。

続いて、「ニューロリハビリテーションと作業療法（仮題）」は、最先端の理論ですね。身体障害領域で働く作業療法士に注目されている理論のひとつがこのニューロリハビリテーションという考え方で、それを作業療法に結び付け、応用していこうという内容です。

3つ目は「生活行為向上マネジメント（MTDLP）の拡がり（仮題）」です。今学会でもシンポジウムで「生活行為向上マネジメント」を取り上げましたが、来年も引き続きシンポジウムのひとつとして設けます。

シンポジウムは現段階では以上の3つですが、もっと増やしたいと考えています。研究者、臨床家の研究成果を発表して意見交換するというのが学術集会本来のありかたではありますが、作業療法士人口の比率からみても若い作業療法士が圧倒的に多いですね。まだ“意見交換”をするに至っていない若い作業療法士たちのためにも、聴講スタイルで、かつ新しい知識を得られるようなシンポジウムやワークショップ、セミナーといったプログラムを増やすことも必要と思います。

今学会のモーニングセミナーでは作業療法の関連学会を公募し、登壇してもらいました。これはいろいろな学会活動をしている会員がいること、そして作業療法の広がりを知ってもらうことが狙いで、その結果、大盛況だった。来年も、そういった活動をしている人たちを演者として登用し、次世代につなげていきたいと考えています。

——最後に、東京学会に向けての抱負をお願いします。

小林：学会テーマに込めた思いでもあります。臨床の背景となる基礎研究を臨床の人たちにも広く知ってもらうような学会にしたいですね。認知症やがんのリハビリテーション、在宅医療や福祉機器の開発や脳科学的な内容など、外せないテーマはたくさんあるので、多種多様なプログラムを用意できると思います。

若い作業療法士にとってもベテランの作業療法士にとっても勉強になるよう、そして研究家から臨床家まで幅広い人が集まって相互交流できる機会となるよう準備を進めていますので、ぜひ多くの人に東京学会に来てもらいたいです。



これからも あなたと共に 作業療法

日本作業療法士協会設立 50 周年 記念式典・祝賀会の祝辞

9月25日（日）、ハイアットリージェンシー東京（東京都新宿区西新宿）において設立50周年記念式典および祝賀会が挙行された。

第一部の記念式典および第二部の祝賀会において、厚生労働省、医療、リハビリテーション、看護関連団体そして世界作業療法士連盟など多くの団体から当協会へ祝辞を賜ったので、会員の皆様と共有すべく、ここに掲載する。

会長挨拶は当日の式次第に掲載されたもの、祝辞は当日の式典・祝賀会で述べられた祝辞の再録である。

当日の会長挨拶

五十年の歩みを記念して

1966年9月25日に誕生した日本作業療法士協会は、本日をもって設立50周年という大きな節目を迎えました。設立初年度には18人の会員で歩みを始めた当協会も、今や5万人を擁する団体となりました。これも、作業療法を必要とし、その人生の大切な時間の一端を私どもと歩んでくださった利用者の皆様がいましてこそその恵みであり、その時々多くの先生方からいただいたご指導とご鞭撻、本日ご臨席賜った皆様の温かいご支援と励ましがなければ、到底なし得なかったことであります。言葉に尽くせぬ思いを巡らしながら、そのすべての方々に、会を代表して衷心より御礼を申し上げます。

本日は短い時間ではございますが、深甚なる感謝の意を込めて記念式典と祝賀会を準備させていただきました。皆様にはどうぞごゆるりとお過ごしになり、心に残る交わりと語らいの場にしていいただければ幸いです。当協会もこの機会を通して、これまでの歩みを振り返り、今のありようを見つめ直し、新たな道行きに向けて、国民の健康と福祉の向上にいっそう寄与すべく、決意を新たに致したいと念じております。

当協会、47都道府県作業療法士会ともども、これからも倍旧のご愛顧とご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

2016年9月25日

一般社団法人 日本作業療法士協会

会 長 中 村 春 基

祝 辞

厚生労働大臣 塩崎 恭久

一般社団法人日本作業療法士協会設立 50 周年記念式典の開催にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴会におかれましては、昭和 41 年の設立以来、会員の皆様のたゆまぬご努力により年々発展を遂げられ、今日まで 50 年の永きにわたり、我が国の保健医療の向上と国民の健康の維持に大きく貢献してこられました。そのご尽力に対し、心から感謝いたします。

また、本日、作業療法業務功労者として栄えある表彰を受けられる 26 名の皆様は、長年にわたり我が国の作業療法の発展に貢献されてこられました。ここに、そのご功績に対し深く敬意を表し、お祝い申し上げます。

ご承知のとおり、我が国の医療を巡る環境は大きく変化しており、国民の医療に対する安心・信頼を確保し、質の高い医療サービスを安定的に提供できる体制を構築することが重要な課題となっています。

厚生労働省においては、各医療従事者が高い専門性を発揮しつつ、業務を分担しながら互いに連携する「チーム医療」を推進しており、患者の動作能力や社会的適応能力を回復・維持する作業療法の果たす役割は、今後ますます大きくなっていくものと思われます。

また、現在、各都道府県においては、地域における医療需要を明らかにする地域医療構想の策定を進めています。

これを受けて、厚生労働省では、医療従事者の需給の見通しや確保策、地域偏在対策等について議論するため、医療従事者の需給に関する検討会を設置し、この分科会において、理学療法士・作業療法士の需給に関する検討を行うこととしております。

このような状況の中、貴会が作業療法に従事する皆様の資質向上のために積極的な取組を進められていることは、大変心強い限りです。

皆様がさらなる研鑽に努められ、より一層国民の期待に応える作業療法を提供されることを願っております。

最後に、貴会のますますのご発展と、本日ご参集の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

祝 辞

公益社団法人 日本医師会 会長 横倉 義武

日本作業療法士協会が設立 50 周年を迎えられるにあたり、一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

設立以来半世紀にわたり、作業療法を通して国民の医療・保健・福祉の増進に寄与されてこられました関係者の皆様方に、深く敬意を表するとともに、設立 50 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

また、4 月に発生した熊本地震では、多くの作業療法士の方々が、JRAT（ジェイラット）として被災地で支援活動をされました。心より敬意を表します。

さて、わが国は世界に類を見ない少子高齢化が進んでおり、持続可能な社会保障制度の再構築が喫緊の課題であります。将来にわたって、子供たちが健やかに育ち、高齢者の老いと病の不安を和らげ、必要な医療・介護を安心して受けられる社会を作るために、我々医療関係者は「国民と共に歩む専門家集団」として変革に当たらなければなりません。

来年 4 月に予定されていた消費税増税は、再び延期されました。消費税増収分を社会保障財源に充てることは「社会保障と税の一体改革」での国民との約束です。社会保障財源不足により、地域で必要かつ十分な医療・介護サービスが受けられないと、最も不利益を被るのは地域の住民です。こうした様々な課題の解決に向けて、医療界が一丸となって取り組む必要があります。今後とも、日本作業療法士協会の皆様のご協力をお願い申し上げます。

2025 年まで 10 年を切り、地域包括ケアシステムの構築が急務となっています。高齢者医療・福祉の現場における作業療法士の方々の役割は、今後さらに増していくものと考えます。高齢者の方々が、できるだけ自身の能力・機能を維持・回復し、生きがいを持って生活するためには、作業療法士による一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援が欠かせません。

作業療法士の皆様方におかれましては、今後とも研鑽に励まれ、患者や利用者、そして地域社会の要請に添えていただきますようお願い申し上げます。

結びといたしまして、日本作業療法士協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

祝 辞

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 理事長 久保 俊一

ただいまご紹介に預かりました、公益社団法人日本リハビリテーション医学会理事長、久保俊一でございます。

この度、一般社団法人日本作業療法士協会が設立 50 周年という節目を迎えられるにあたり、日本リハビリテーション医学会を代表し、一言お祝いを申し上げます。

貴協会は、作業療法士という国家資格がスタートした記念すべき年に誕生されました。作業療法は、日常生活に関わるすべての活動、すなわち作業が心と体の癒やしに繋がるという紀元前からの人類の知恵を源流にしています。18 世紀後半には科学的な根拠に基づく専門的な療法として欧米で体系化されました。その後 1916 年に東京帝国大学の呉秀三教授が日本に初めて導入したと伝えられています。本年は作業療法 100 周年という年にもあたります。衷心より敬意を表します。

日本リハビリテーション医学会は 1963 年の発足以来、貴協会とともに歩んできたといえます。リハビリテーション医学・医療を取りまく多くの課題がありました。それらに対し貴協会はもとより、たくさんの専門職種の協会あるいは学術団体とともに取り組みを行って参りました。その結果として、今日の日本のリハビリテーション医学・医療の発展には、目ざましいものがあります。喜ばしい限りです。

さて、日本は超高齢社会に突入しています。社会保障関係費の 2016 年度予算は一般会計予算の約 33% に迫りました。今後の人口構成の変化を考えても、医療・福祉制度の改革は待ったなしの状況です。

2025 年を目途に、国は地域包括ケアシステムの実現を目指しています。この地域包括ケアシステムの根幹がリハビリテーション医学・医療と言っても過言ではありません。2000 年に回復期リハビリテーション病棟と公的介護保険の制度新設があり、2006 年から導入された疾患別リハビリテーションはリハビリテーション医療には追い風となりました。しかし、今ではリハビリテーション医療は唯一、成果主義となり、今、まさに、その質を問われようとしています。

日本リハビリテーション医学会では、①質の向上と標準化によるリハビリテーション医療の確立、②リハビリテーション医療におけるハブ機能の役割強化。リハビリテーション関連職種間の横断的連携と関連職の質向上に対する教育的貢献、③介護予防、地域包括ケアシステム、地域医療構想に果たすリハビリテーション医療の役割の明確化、④リハビリテーション医学の卒前・卒後教育の充実と新専門医制度を見据えた教育体制の整備、⑤ロボットなど先端医療機器の開発を含むリハビリテーション医学研究の推進、⑥災害時の被災地へのリハビリテーション医学的対応や 2020 年の東京パラリンピックを見据えた障がい者スポーツの振興。そしてそれらの社会的貢献を通じた inclusive 社会すなわち寛容社会の実現を目標に、活動して参る所存です。この目標は、貴協会をはじめとしたリハビリテーション関連職の協会や学術団体の全面的な協力、協働なしでは到底、達成できるものではありません。今後も、これまで同様、ご厚誼を賜りたいと思います。

最後になりましたが、一般社団法人日本作業療法士協会が益々発展され、「ひとは作業をすることで元気になる」という明快な理念のもと、加齢や病気・障がいにより生活に支障が生じた方が、改めて自身の生活や生きがいを創り出し、社会との接点を見いだすための手法として活用できる、作業療法の普及と社会への働きかけにご尽力頂くことをお願いして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立 50 周年、誠にありがとうございます。

祝 辞

公益社団法人 日本看護協会 会長 坂本 すが

このたび、「一般社団法人日本作業療法士協会」が設立 50 周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

貴会が、設立以来半世紀にわたって、国民の健康と福祉の向上を目指し、作業療法士の学術技能の研鑽や、作業療法の普及発展にご尽力されてきたことに、心より敬意を表します。

いま、少子・高齢化が急速に進むなか、「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められ、地域包括ケアシステムが構築されようとしています。住み慣れた地域、「生活の場」において、病気・障がいを抱えながらもその人らしい生活ができるように支えることが求められています。

その中で、患者さんが「生活」を再構築していくという視点がより一層重要になります。

貴会の中村会長は、「ひとは作業をすることで元気になれる」という理念の下、本人、家族、地域社会、環境に働きかけを行うのが作業療法だとおっしゃっています。

貴会が開発された「生活行為向上マネジメント」は、作業療法を通じ主体的な「生活」の獲得を目指すものであり、まさに時代のニーズに応えたツールと、期待を寄せております。

作業療法士の皆様は、患者さんが元気になるよう、その人生がより豊かなものになるよう、日々支援に努めていらっしゃいます。そして私たち看護職も同じような志を持っております。専門性は違いますが、「患者さんにとっての最善」という、同じゴールを目指す同志として、大変心強く思っております。

生活の質の向上の視点をベースに、いかなる支援が必要か、共に考えながら、お互いの専門性を発揮し、今後もより一層連携・協働してまいりましょう。

結びに、貴会が、50 年の確かな歩みと輝かしい実績をもとに、今後、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

日本作業療法士協会 50 周年をお祝いして

日本リハビリテーション病院・施設協会名誉会長
兵庫県立総合リハビリテーションセンター名誉院長
澤村 誠志

日本作業療法士協会が 50 周年をお迎えになられたこと心からお祝い申し上げます。

昭和 41 年発会后、鈴木明子会長から矢谷令子、寺山久美子、杉原素子、そして現在の中村春基会長にいたるまで、歴代会長の素晴らしいリーダーシップのもとに、一昨年の世界大会を見事に開催されたように、国際的に大きな評価を受ける協会に育てられたことに心から敬意を表したいと思います。

私は中村春基会長と 30 数年来同じ兵庫県立総合リハビリセンターで過ごし、常に作業療法士の役割について議論し、一緒に海外での作業療法士の地域活動の現場を見る機会を持ちました。その理由は、私が約 30 年間 ISPO（国際義肢装具協会）の仕事を通じてできた各国の友人を通じて毎年海外先進国を訪問し、そこで見た作業療法士の地域でのリハ活動に感激したことがきっかけでした。30 年前にスエーデンの家庭医グループによるプライマリケアセンターを訪れたときに、機能訓練を理学療法士にまかせ、作業療法士が福祉用具を積み込んだバンの車をのりまわし、地域の訪問リハ、住宅改修、福祉用具（テクノエイド）を通じて、在宅障害者・高齢者の生活支援に汗をかいている姿をみて将来のわが国の作業療法士の重要な役割と心に留める契機となりました。

平成 20 年頃から日本作業療法士協会の生活行為向上マネジメント研究班に属して、“作業の捉え方と評価・支援技術”の研究に参加させていただきました。人とその生活を構成するさまざまな作業行為をアセスメントし、心と体のリハビリテーション、生活行為向上マネジメントを目指すこの協会の真摯な研究成果が積み重ねられました。その成果が行政を動かし、今日の介護予防・日常生活総合支援事業・地域リハビリ活動事業に結びつく大きな一歩となったと信じています。

幸いわが国では海外にはない回復期リハ病棟が整備され、前置主義としてのリハ医療は国際的にも大きな評価を受けています。しかし、今後わが国は入院リハから在宅リハサービス重視の方向に舵を取り、IADL から QOL を経て最終的に QOD に向かって、連携・協働していくことが大切です。そのためには、作業療法士の教育カリキュラムの改革と共に、看護介護との連携の中で地域の要となる職種として作業療法士が大切な役割を果たしていけることを期待しております。

さらに、国際的に通じる優れた人材育成が必要です。障害のある人々のニーズの深層にこたえるためには対象となる障害の範囲をしぼり、各障害毎に国際的に認知される作業療法士を育成していく必要があります。義肢装具の世界では、2019 年に ISPO 世界会議が再び神戸で開催されますが、国際的な場に挑戦する優秀な人材をお育てください。

今後の日本作業療法士協会の益々のご発展を祈っています。

Address to the Celebration of the 50th Anniversary of Japanese Association of Occupational Therapists (JAOT)

Marilyn Pattison
President

World Federation of Occupational Therapists

It is my great pleasure on behalf of the World Federation of Occupational Therapists (WFOT), to congratulate the Japanese Association of Occupational Therapists (JAOT) on the occasion of 50th Anniversary of the foundation of this association.

Japan has been a full member of the WFOT since 1972, and has always provided significant support to the WFOT. This support has included promotion of the WFOT and its various global work programmes, and the friendly, thoughtful and dedicated commitment of the JAOT Delegates to the WFOT Council meetings over the years, with the support of the JAOT to attend these meetings.

At this event, we celebrate the achievements and contribution to the local, national and world occupational therapy communities. On behalf of the WFOT, I would like to share some of the broad areas of the Japanese contribution to the global scene.

The WFOT Congress 2014, hosted by the JAOT, showcased the accomplishments and evidence provided by the Japanese occupational therapists', adding to the growing body of knowledge on a healthy life through the study of both the physical and social determinants of health. In addition to the more scientific studies and evidence, presentations on the Disaster Response relating to the Great Eastern Earthquake and other natural disasters in Japan, and the focus on traditional and emerging lifestyles, were of great interest to the international delegates attending Congress 2014. Congress 2014 enabled over 1,500 international delegates to learn about occupational therapy in Japan, and to experience the Japanese lifestyle. The Japanese lifestyle activities in the Congress Exhibition venue, and the participation of the Emperor and Empress in the Congress Opening Ceremony were once in a lifetime experiences for the international visitors. Congratulations to the JAOT for creating lifelong memories to colleagues from around the world.

The JAOT's support for the WFOT 2014 Executive Management Team and Council Meetings and Congress was exemplary and very much appreciated by the WFOT. The JAOT contributed significant efforts in so many ways to ensure the outstanding success of these events. Further, the support and personal contributions of the JAOT Executive, Delegates, and Committees to these events, and the WFOT visits in the years leading up to 2014, were highly valued by the WFOT Executive and have left a lifetime impression of the hospitality and dedication of our Japanese colleagues.

The achievements of the JAOT in the development of occupational therapy practice, research and education in Japan are significant. Congress 2014 Delegates, and the Executive Management Team and Councillors were privileged to visit some of the occupational therapy services whilst visiting Japan. These visits informed us of the different practice areas for occupational therapists in Japan, and provided some insight into the health needs of the Japanese people.

There are two areas I would like to highlight where the profession of occupational therapy in Japan has provided inspiration and guidance to occupational therapists globally.

The work undertaken in the area of Disaster Preparedness and Response in Japan provides information and guidance to colleagues around the world who find themselves responding to major disasters to support people, particularly those with disabilities, to resume meaningful occupations in altered living circumstances. By sharing information about the response of occupational therapists and the JAOT via the WFOT e-newsletter, Bulletin and other reports, Japanese occupational therapists have made a significant contribution to the evidence for best practice in disaster response internationally.

Healthy Ageing is another area of high importance on the World Health Organization and global health agenda, to which Japan has much to contribute. With an ageing population, and respect for traditions, culture, and lifestyle, occupational therapists from around the world can find a wealth of evidence, guidance and ideas

for their interventions and wider health services planning from the Japanese experience.

The WFOT Congress keynote address by Kumiko Terayama published in the WFOT Bulletin Issue1, 2015, provides a wonderful account of the development and future of occupational therapy in Japan. The article 'Innovations and challenges in occupational therapy in Japan: From the viewpoint of the Japanese Association of Occupational Therapists' informs us of the Japanese experience, thus contributing to the body of knowledge accessible to the global occupational therapy community.

Congratulations to the JAOT, and all occupational therapists in Japan on this significant occasion.

I wish you a wonderful and well deserved celebration of the great achievements and developments in occupational therapy in Japan, and in the JAOT over the past 50 years, and best wishes for the future. Congratulations to all.

(要約を以下に掲載する)



祝 辞 (抄訳)

世界作業療法士連盟 会長 マリリン・パティソン

日本作業療法士協会の設立 50 周年にあたり、世界作業療法士連盟 (WFOT) を代表して心からお祝いを申し上げます。1972 年に貴会が WFOT に加盟して以来、2 年ごとに行われる WFOT 代表者会議などで、貴会からいつも献身的なご支援・ご協力を頂いてまいりました。

本日のこの機会に、WFOT を代表して、貴会が果たしてきた国際舞台への貢献の一端をご披露し、皆様と分かち合いたいと思います。

2014 年の WFOT Congress (世界作業療法士連盟大会) では、貴国の作業療法士が蓄積されてきた作業療法実践の成果と根拠が示され、ひとの健康的な生活に資する知識体系の拡大に大いに寄与されました。また、東日本大震災における被災者の支援活動は、1,500 名を超える海外参加者たちの注目を集めました。そして開会式に天皇皇后両陛下がご臨席されたことは彼らの一生の思い出になったことでしょう。

この WFOT 大会と、それに先立つ役員会議・代表者会議は貴会のご努力のおかげで、素晴らしい成功を収めました。

また、今大会の参加者たちは、日本滞在中に複数の施設を訪問し、貴国の作業療法士の様々な実践を知り、日本人の健康ニーズを理解するきっかけにもなりました。

貴国の作業療法士が世界の作業療法士に示唆と教示を与えた 2 つの領域について特筆したいと思います。

一つは、貴会が取り組まれている災害対策および被災者支援に関する活動です。これは、世界中の作業療法士たち、とりわけ大規模災害時に障害者を支援し、変容した生活環境下で意味ある作業の再開に取り組んでいる作業療法士たちに、貴重な情報と示唆をもたらし、国際的に多大な貢献をしたと言えます。

もう一つは高齢化への取り組みです。健康に年齢を重ねることは、WHO (世界保健機関) などでもその重要度が高く位置づけられ、貴国が大いに貢献できる領域です。貴国の高齢化と、その伝統・文化・生活様式に敬意を払いつつ、世界中から集まった作業療法士たちは、貴国の作業療法士たちの取り組みに、高齢者に対する作業療法の介入効果とその根拠を見出すことができるでしょう。

WFOT 大会における寺山久美子氏の基調講演は、「日本における作業療法の進展と挑戦～日本作業療法士協会の立場から～」という記事になって、2015 年の WFOT 機関誌にも掲載されました。

この素晴らしい機会に、貴会と貴国の全ての作業療法士の皆様に心よりお祝い申し上げます。

過去 50 年にわたる貴国と貴会における作業療法の偉大な業績と発展にふさわしく、素晴らしい式典となることを祈念するとともに、今後の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

祝 辞

衆議院議員 丹羽 雄哉

日本作業療法士協会の設立 50 周年記念祝賀会にお招きを頂き、中村会長はじめ皆様方と盛大にお祝いを申し上げること、心から嬉しく思います。

作業療法士はコ・メディカルの重要なスタッフの一員として、今や地域医療に欠かせない役割を担っています。わずか 20 人でスタートした日本作業療法士協会は、半世紀を経て、会員数が今や 5 万人となっております。大変高い組織率を誇っておられ、心強く、頼もしく思っております。

作業療法は、お一人おひとりの患者さんの人生に寄り添い、自立した生活を送るためのリハビリや環境づくりに大きな役割を果たされております。恐らく以前はどうせ治らないとあきらめてしまった症状も、リハビリを通じて不自由なく生活できるようになり、いま改めてリハビリのあり方が高く評価されています。

皆様方が作業療法を通じて、患者さんやハンディのある方々に「生きがい」や「喜び」をもたらす。それが、まさに皆様方の使命であり、誇りではないかと思います。

この 50 周年を契機に、これからも一歩一歩、着実に作業療法士の質を高められ、五十年先、百年先においてさらに大きな役割を果たすことを期待し挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。

溝部二十四さん

平成 28 年度飯田賞奨励賞を受賞

溝部二十四さん（兵庫県立総合リハビリテーションセンター、会員番号 9375）が、日本義肢装具学会の「飯田賞（奨励賞）」を受賞した。平成 28 年 10 月 15 日、16 日に開催された第 32 回日本義肢装具学会学術大会の総会時に表彰式が行われた。受賞理由は「臨床における筋電義手訓練システムの定着と研究」に関する功績である。

飯田賞は、故飯田卯之吉氏が永年にわたり義肢装具の発展のために尽くした業績を偲んで 1981 年に日本義肢装具学会に設けられた賞であり、義肢・装具・リハビリテーション工学の分野で優れた業績をあげた者を表彰する大変栄誉ある賞であり、本賞と奨励賞からなる。作業療法士の飯田賞奨励賞受賞は 14 人目となった。

日本義肢装具学会飯田賞奨励賞を受賞して

このたび、日本作業療法士協会よりご推薦いただき、飯田賞奨励賞を受賞することができ、心より光栄に存じます。私は、作業療法士として義肢装具関連、特に義手を通して作業療法の面白さを学ぶことができ、とても恵まれた環境で育てていただきました。兵庫県立総合リハビリテーションセンター関係者、ならびに上肢切断者のリハビリテーションに携わる全国の方々、そしてユーザーの皆さまに深謝いたします。作業療法士として、これまでの活動はまだまだ道半ばのものです。この受賞を励みに、上肢切断者・児へのリハビリテーションのさらなる発展に向け、今後も精進していく所存でございます。

第 33 回（2017 年）日本義肢装具学会学術大会は、TFT ビル・ホール（東京）にて森田千晶先生（国際医療福祉大学、作業療法士）を学会長に開催されます。皆様も是非ご参加ください。



溝部 二十四氏



第2回 (全6回)

保育所等訪問支援の支援類型

前号において、2012年に創設された新しいアウトリーチ型サービスである保育所等訪問支援の概要について紹介した。本号においては、どのような利用の仕方があるのかを、事例を基に紹介していく。

支援の種類の紹介

『障害児通所支援ハンドブック』¹⁾によると、保育所等訪問支援の利用の仕方は、1. 継続利用型、2. 併行利用型、3. 単独利用型、4. 体験利用型の4つに類型化できる。これに若干の解釈を加えて説明する。

- 1. 継続利用型**：児童発達支援や放課後等デイサービスなど、通所による支援サービスを利用していた児童が、次のステップとして保育所や幼稚園、学校などに移行する際、これまで実施してきた発達支援方法を伝達し、新しい施設への子どもの適応を円滑に進めるために行われる。いわゆる「引き継ぎ」を主とした内容である。リハビリテーション医療からの移行についても、同じ意味合いと解釈できるので、この1に分類される。
- 2. 併行利用型**：児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している児童が併行して通っている保育所や幼稚園、学校を訪問して支援する方法。通所支援で行っている支援の内容や方法と整合性、一貫性を持たせることができ、かつ新たに発生する課題に対して関係機関と共に考えることができるというメリットがある。
- 3. 単独利用型**：これまで通所による支援サービスを利用していなかった児童が、保育所等訪問支援だけを利用し、保育所や学校での適応を促したり、学習の促進を行う場合が、この単独利用型である。家族の状況によって、通所支援を利用できない時にこのように支援する方法もある。
- 4. 体験利用型**：発達支援の必要性に気づかれているが、支援を受けることの心の準備が整っていないなどの理由のために通所支援につながらない児童に対し

て、試行的に体験利用し、発達支援の必要性や効果を確認してもらうことを意図して行われる。支援を受けることの有効性、必要性を感じてもらうことで、必要な場合には通所支援につながることも可能となる。ただし、契約に基づいた支援であることに留意し進める必要がある。

利用を進めるうちに、当初体験利用型として始めたが通所支援を利用することになり併行利用型に変わる場合や、単独利用型として継続支援を受けていく場合など、状況が変わっていくことも少なくない。

なお、これらはあくまで支援者側における整理・分類であるので、いちいち利用者と類型を確認することは必須ではない。さらに、本事業は子どもの集団生活を支援するものであることを忘れてはならない。

事例の紹介

今まで見てきた類型ごとの事例を紹介する。ここで紹介する事例は、プライバシー保護のため、複数の事例を組み合わせた架空の事例となっている。

1. 継続利用型

利用施設 特別支援学級→特別支援学校

開始年齢 小学1年秋

障害名 自閉性スペクトラム障害

概要 放課後等デイサービスにおいて、作業療法士が関わっていたケース。通っていた特別支援学級で保育所等訪問支援を開始したが、特別支援学校に翌年転校することが決まる。放課後等デイサービスも終了になることから、引き継ぎと転校の準備として、保育所等訪問支援にて特別支援

学校で支援を行ったケース。

経過と内容 特別支援学級在籍中に保育所等訪問支援にて支援を開始した。当初は、予定の変更や、予期しないことに対して強い不安を抱く傾向があり、様々なことが起こる学校生活では混乱することが非常に多いことが課題とされていた。介入により、登校した際に、他児のいない教室にまず入り、そこで担任と朝の会を行うということと、一日のスケジュールをその場で確認してから、みんなのいる教室に入るという手続きを行っていったことが効果的で、支援開始前に見られていた登校渋りも改善し、登校は安定した。

ただ、登校は安定したものの、集団で授業を受けることには抵抗が強く、いったんはみんなの教室に入るものの、すぐに飛び出してしまう、朝登校した時の部屋に入ってしまうことが多くなってしまった。教室に入れたとしても、ドアを閉めることができず、冬でも開けたままで授業を受けることになっていた。本児の生活しづらさを見かねた保護者が、個別対応が行えて、より構造化されている特別支援学校への転校を決断された。放課後等デイサービスが、事業所の規定上1年生で終了になることもあり、特別支援学校に適切に引き継ぐことが必要となった。

そこで、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと打ち合わせを行い、現状の共有と今後の展開について検討した。その結果、転校手続きの一つである体験入学の段階から、支援を行うこととした。事前に訪問し、本人の特性を踏まえた環境設定、スケジュールの作成を一緒に行った。結果、本人にとっての成功体験として終えることができた。その後は、新学年のスタートに向けて、同様の機会を二度もった。また、始業式に、いきなり全校生徒と一緒にいる場面は回避し、教室で待機することも学校へ提案した。もちろん多少

の混乱は伴いながらも、転入前から丁寧な準備を行うことにより、登校は安定し、クラスで授業を受けられるようになった。まだ体育館には入ることができないといった課題を残していたが、担任の先生を含めた学校の先生方が本人の特性を理解し、ステップを踏んで対応していけることが確認できたので、4月末で保育所等訪問支援を終了とした。

2. 併行利用型

利用施設 保育園

開始年齢 3歳児春

障害名 脳性麻痺

概要 この事例については、前号（10月号）で紹介している。通園施設においては、保育所等訪問支援のみの利用であるが、訪問リハビリテーションを利用しており、訪問リハビリテーションとの併行利用である。

経過と内容 経過と内容：前号を参照。

3. 単独利用型

利用施設 特別支援学級

開始年齢 小学2年初夏

障害名 ダウン症

概要 小学校入学後は学校以外に通所サービスなどの支援を受けていない児童である。不器用が原因で、勉強に対してやる気が出ずに困っているとの保護者の訴えで、保育所等訪問支援にて支援を開始した。学校において、訪問支援員と担任と保護者との三者で場면을共有したことで、課題を共有し、教材や支援の方向性を揃えることができた。積極的に勉強に取り組む姿が見られるようになった。

経過と内容 担任の紹介で保育所等訪問支援につながったケース。訪問した際は、授業中に行動観察を行い、休み時間・授業中・放課後に直接介入する方法で支援を行った。特別支援学級において、個別学習課題が行われる際に介入した。直接介入したときには、その方法を担任と共有、伝達し、先生が日々実践する方法をとった。また、放課後に行う場合には保護者にも同席してもらい、担任と三者で場面を共有した。作業療法士が課題と教材の提案を行うと、保護者は積極的に作成してくれた。学校で用いる教材も用意してくださり、学校・家庭（宿題）も統一の教材で学習を行うことができた。また、学校と家庭で難易度の異なる教材を用いて役割分担をすることなどができた。結果として、本人の操作性について機能改善が見られ、学習に対する積極性が高まり、自ら宿題に取り組むようになった。

を受け、保育園を休まずに支援を受けられるのであれば受けてみようということで、開始になった。

行動観察の結果を受けて、訪問支援員から一緒に保育を見ることを保護者に提案した。当日は担任の先生が窓に黒い紙を貼り、小さい穴をたくさん開けて、中をのぞけるが子どもたちには発見されにくいという状況を作ってくださった。果たして、家庭では見られない姿を保護者も見ることができ、「先生が言っていた姿はこれですか」と驚きと納得の感想を漏らしていた。その経験があったので、支援に対して積極的になり、機会があればまた一緒に保育を観察したいという希望も出るようになった。時間を合わせて、何度か見学を共にしている。

そういったことを積み重ねるうちに、保護者の保育園に対する信頼度がとても高くなった。担任の先生とも本人の現状や課題について、ざっくばらんに話ができるようになり、協力関係が持てるようになっていった。

4. 体験利用型

利用施設 保育園

開始年齢 4歳児春

障害名 ADHD

概要 保育園から紹介を受け相談に来たケースであるが、保育園は休まずに通わせたいとの意向もあり、通所サービスの利用は望んでいなかった。保育園で支援を受けられるのであれば利用してみたいということで、保育所等訪問支援を開始することとなった。支援を受けていく中で、支援の必要性和有効性に対する理解が深まっていったケースで、まさに体験的に利用したことが効果的であったケースである。

経過と内容 保育園の先生から言われたので相談に来たが、保護者の心配は少なく、支援の必要性は感じていない。発達支援の必要性について説明

おわりに

実際の例を紹介しながら、支援類型を紹介した。対象児と家族の状況とニーズに応じた展開ができることがわかっていただけたであろうか。通園支援では提供しにくい柔軟な提供スタイルをデザインできることが保育所等訪問支援の特徴の一つである。「○○しかできない」「○○してはいけない」という固定観念にとらわれることなく、対象者・関係者のニーズと状況に応じた、作業療法士の得意な創意工夫に満ちた実践の蓄積を期待したい。

-
- 1) 全国児童発達支援協議会 監修：障害児通所支援ハンドブック．エンパワメント研究所，2015

Asian Journal of Occupational Therapy (AsJOT ; アジア作業療法ジャーナル) 投稿方法の変更

学術部 学術誌編集委員会

協会の英語雑誌である『AsJOT』の編集方法の変更に伴い、投稿方法や査読方法が変わりましたのでお知らせします。『AsJOT』は日本では唯一作業療法の論文を英文で投稿できる雑誌です。本誌の利点としては、査読や編集情報が日本語でも対応できることであり、事務的な連絡を英語で行わなくてもよく、日本人でも投稿しやすい点にあります。一方で、投稿してからの対応が遅くなってしまい、論文の採択までに時間を要していたという課題も挙げられます。

そこで、このたび、本ジャーナルの編集・査読システムを、これまで行っていた電子メール添付にて行う方法から、**オンラインで投稿、査読、編集を行うシステムに変更**し、これらの作業の迅速化を図る一助といたしました。今後、投稿者は、下記の方法より Editorial Manager のオンライン投稿システムにアクセスし、投稿していただきますようお願いいたします。

投稿する際には、次の順に進んでください。

- ① 会員向けページの右側の「Members info」>「学術研究」の“Asian Journal of Occupational Therapy”をクリックしてください。

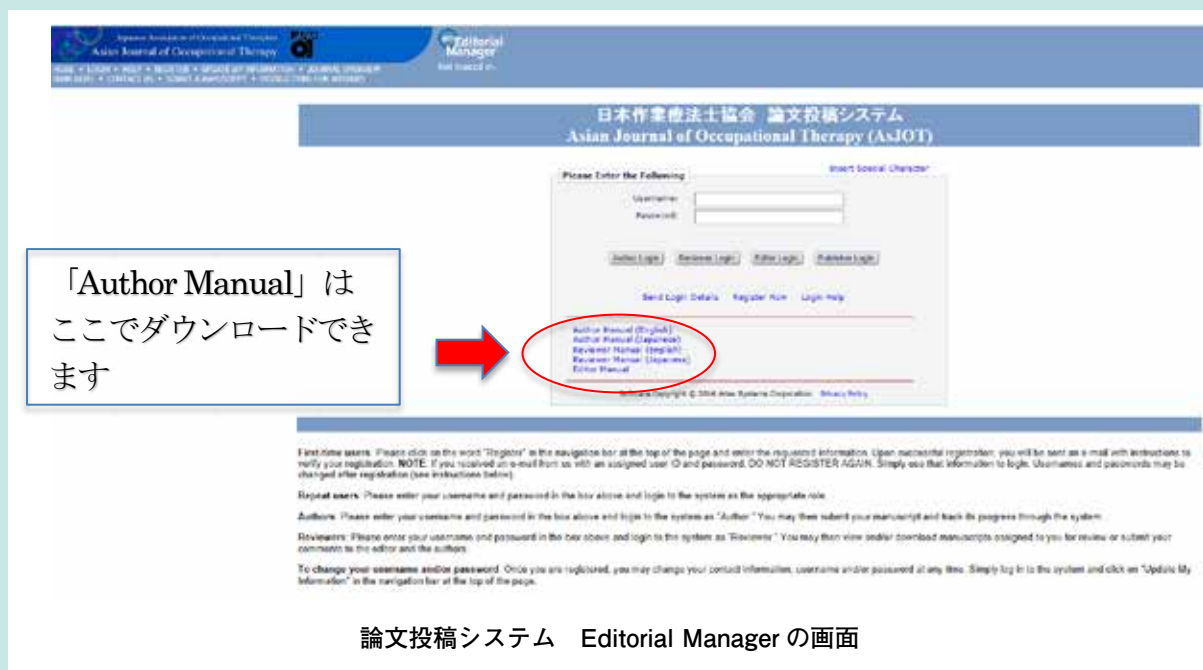


ココを選択

② 選択すると下記の画面に移行しますので「投稿はこちらから」をクリックしてください。



③ 下記の投稿システムの画面に移行します。まずは、「Author Manual」をご確認いただき、初めての投稿の方はアカウントの作成をしてご利用ください。



なお、マニュアルを読んでも利用方法がわからない場合には、下記の編集部までお問い合わせください。

Asian Journal of Occupational Therapy 編集部
一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局（担当：山崎）
Tel：03-5826-7871 / FAX：03-5826-7872
メール：asianjot@jaot.or.jp

登録事例の紹介

～MTDLPを活用し一部復職に至った事例～

平成 27 年 7 月末より開始された生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例報告の中で、審査終了後公開されているものは現在 13 事例であり対象者の病期や領域は様々である。平成 28 年 10 月 20 日現在も、多くの事例が審査待ちの状態となっている。

今回は回復期病棟入院中の対象者に MTDLP を活用し、一部復職に至った事例を紹介する。ICF に基づく生活行為のアセスメントを行い、退院後の生活像を見据えた目標設定、プログラム立案がされている。また、多職種、家族と連携し社会参加までのマネジメントが行われている。例示事例は、日本作業療法士協会ホームページから事例報告登録システムにログインし、「事例検索」で「総合判定（生活事例のみ）」の中から「S」を選択し、検索することで、「S 判定事例」が抽出される。MTDLP 実践の参考などにご活用いただきたい。

（学術部学術委員会 事例登録班）

早期の生活目標合意と支援者連携によりトマト栽培の仕事に監督役から復帰可能となった事例

【事例紹介】 対象者は 70 歳代後半の男性で、診断名は脳梗塞（アテローム性脳血栓）で、発症後から急性期のリハビリテーションを行い回復期病棟に転院となった。職業は自宅隣のトマト畑でトマト栽培の仕事を 30 年間行ってきた。性格は親分肌で面倒見が良く、努力家で自分に厳しい。1 日の過ごし方は、6 時起床で日中のほとんどは仕事を行い、22 時就寝という規則正しい生活を送っていた。他者との交流や趣味活動も豊富で、仲間と旅行に行くことを楽しみ、公民館活動では監督役を務めた。家族は妻と二人暮らしで、片道 40 分の所に次男が住んでいる。

発症より 88 病日経過した時点での対象者の生活行為の目標は「トマトの仕事に戻りたい」であった。左 BRS 上肢 V、手指 V、下肢 V、筋力は体幹 3、左上肢 3、右上肢、左下肢 4 で左握力 0.0kg、左半身感覚重度から中等度鈍麻、SIAS（左）45/76、片麻痺上肢能力テスト（左手）補助手 A、HDS-R21/30・MMSE21/30・TMT-A204.0 秒、BI60/100・FIM78/126 であり、ADL 軽介助から見守りであった。FAI0/45、老研式活動能力指標 5/13、介護保険未申請であった。問題点は、左肩疼痛（VAS8、反射性交感神経性ジストロフィー）・ROM 制限、左半身随意性・感覚・筋力低下、認知機能低下、更衣・トイレ・

食事動作軽介助であり、トマト栽培の仕事全般に障害があった。現状能力は、右上下肢問題なし、座位・立位バランス良好、左へは注意喚起で注意が向く。環境因子としては、妻と次男の支援が非常に良好であり、自宅の隣で自営業をしていることが挙げられた。予後予測は、1 カ月後に全ての ADL 動作が見守りになること、2 カ月後に歩行を含めた ADL 修正自立および家族支援による仕事復帰が可能と考えた。合意した生活行為の目標は「1 カ月後に全ての ADL 動作が見守りになり、2 カ月後に歩行を含めた ADL が見守りから軽介助で行え、退院後、妻と次男の見守り下で、自宅隣のトマト畑でトマト栽培の仕事（摘み芽・葉摘み・誘引・収穫・運搬・選別）に週 2 回以上参加できるようになる」であり、自己評価は実行度・満足度とも 1/10 であった。

介入の基本方針としては、早期より合意目標を形成し、対象者・家族・病棟・療法士間が一丸となり、ADL 修正自立および仕事復帰に向けチームアプローチを行えるように連携を意識した。対象者に自主トレ練習の指導、家族には必要物品の持参依頼、病棟には ADL 練習介入依頼、療法士間では強化すべき機能面を周知し合った。

【作業療法の開始】 週 5 日、1 回 60 分 3 単位の入院個

別作業療法を2カ月強実施した。機能・活動向上として、本人には自主トレ、家族には物品持参の支援、支援者は病棟職員（Ns・CW）と療法士（PT・OT・ST）とし、初期から役割分担を明確に設定した。作業療法の基本的プログラムは、交代浴・ミラーセラピー、左上肢機能練習、注意・記憶課題練習、心身機能自主トレ（左上肢・手指ROM練習）を行い、リハ時間以外の離床時間拡大および機能向上を目的とした。応用的プログラムは、更衣・トイレ・食事動作練習と自主トレ、歩行練習、床上動作練習、模擬的作業練習（摘み芽・葉摘み・誘引・収穫・選別）を行った。社会適応プログラムは、自宅でOTと動作確認、OT・CMによる家屋調査、CM・家族とデイケア施設見学、外泊時作業練習を実施した。また、一部制限付きの仕事復帰が可能となるよう、家族にはトマト栽培の仕事復帰への役割検討を依頼した。加えて、退院後の活動参加・協力を家族・友人面会時に提案し、今後の社会参加拡大を狙った。病棟内でNs・CW・家族を中心に実際場面でADL練習を行っていただくべく、介入方法の口頭伝達・見える化（貼り紙）・介入方法指導（実技）を実施した。そして、療法士間でもADL練習介入をお願いした。STには記憶向上や動作時の注意分配性向上の強化を依頼し、PTには歩行時のぶつかり・ふらつき軽減と床からの立ち上がりの強化を依頼した。Ns・CWには見守り下での歩行練習支援を依頼した。

第1期：認知機能向上・左上肢機能・両手動作向上にてADL全般に改善がみられはじめた時期（1～4週）。トイレ手順の記銘向上や左殿部の下衣修正が向上しはじめた。自らで左殿部への注意が向けられるようになり、鏡を見て下衣の状態を確認する習慣が定着しはじめた。また、食事では左手で器を押さえる姿が増えてきた。さらに、左手指巧緻性・両手動作の向上がみられはじめ、上衣のジッパー留めから上衣動作練習を開始できた。しかし、左袖部分がねじれたままの着衣が多くみられていた。

第2期：床からの立ち上がりや下衣・トイレ・食事動作が見守りで行えるようになった時期（4～6週）。歩行時の安定性向上がみられはじめ、安全な歩行が可能となってきたため、院内移動は独歩見守りになった。下衣・トイレ・食事動作は見守りで行えるようになった。

第3期：上衣・入浴動作が見守りで行えるようになった時期（6～8週）。左手指巧緻性およびピンチ力が向上し、更衣動作の時間が短縮したほか、上衣左袖のねじれを防止する方法を自ら考案し、効率良く着脱できるようになった。また入浴では、120cm程度のアカスリを用いることで、背中を洗うことが可能となったが、左上肢挙上時、疼痛のための防御収縮は残存していた。

第4期：トマト栽培の仕事復帰に向け、作業向上に介入した時期（8～10週）。左下肢随意性、左上肢機能、体幹・左上肢筋力、左半身感覚、認知機能（注意・記憶・視空間認知・見当識）が改善した。上衣動作は修正自立となったほか、ADLは入浴・階段を含め修正自立となり、床からの立ち上がりも修正自立へと改善した。また、歩行は昼夜自立へと変更になり、活動範囲は大幅に拡大した。そして、胸部位置での両手動作や姿勢変換を含めた作業練習（摘み芽・葉摘み・誘引・収穫・選別）が可能となり、一部制限付きの仕事復帰が可能な状態へと改善した。

【最終評価】左BRS 上肢V 手指V 下肢VI、筋力は、体幹4・左上肢4・右上下肢と左下肢5、左半身感覚軽度鈍麻、SIAS(左)59/76、片麻痺上肢能力テスト(左手)実用手B、HDS-R28/30・MMSE26/30・TMT-A142.1秒、BII100/100・FIM106/126、基本動作・ADL修正自立、FAI9/45、老研式活動能力指標7/13となった。しかし、残存する問題点は、左上肢・手指随意性低下、左上肢感覚鈍麻、左握力低下(0.2kg)、左肩疼痛(VAS3)・ROM制限、二重課題・構成能力低下であった。合意した生活目標は達成できた。退院後の聞き取りでは、自己評価は実行度8/10、満足度8/10となり、「トマトの仕事に監督役から戻れたよ」と回答があった。また座位・立位で摘み芽・葉摘み・誘引・収穫・選別作業が努力的に可能となり、見守り下で週4回参加に至った。しかし、支持物がなければ床から立てない、しゃがみ位をとり続けられない、頭上での作業が行いにくいと、一部制限付きでの作業となっている。摘み芽・葉摘みの作業はハサミを用いて代償しており、作業時間は連続15分程度が限度である。そのため、デイケア・訪問リハを週2回ずつ利用し（要介護2）、地域連携にて支援継続中である。

世界作業療法士連盟発行『WFOT Bulletin』 ブリテン通信

『WFOT Bulletin』はWFOT（World Federation of Occupational Therapists）の公式出版物であり、年2回、4月・10月に発刊されている。当連載『国際部 INFORMATION』では今後、「ブリテン通信」として、『WFOT Bulletin』発行に合わせて目次を紹介し、目次を通して世界の作業療法のトピックスをお伝えしていく。

以下に最新号（Volume 72, Iss, 1, 2016）の目次を掲載する（WFOT 事務局の許可を得て掲載している）。

1. Editorial 論説

Changing Times 変わりゆく時代 Kit Sinclair p1-2

Message from the president 会長のメッセージ：education-it's a serious business 教育—その重大な事業 Marilyn Pattison p3

Guest editorial 客員編集者の論説：Bethan Collins p4

2. EDUCATION 教育

Preparation for an uncertain world: international curriculum development for mental health occupational therapy 不確かな世界への準備：精神科作業療法の国際的なカリキュラム開発 Katherine Wimpenny, Loren Lewis, Sarah Roe, Huget Désiron, Imogen Gordon, Sue Waters p5-15

Targeting the globe: internationalisation in occupational therapy education 世界的な目標：作業療法教育の国際性（化） Lorie Shimmell, Hanin Al-Helo, Kellea Demille, Danielle Kandel-Lieberman, Mara Kremenovic, Kimberly Roorda, Markie Ryckman, Sandra Bressler, Ritchard Ledgerd, Susan Baptiste p16-23

Using an e-portfolio and competency tracking system in occupational therapy education 作業療法教育でのe-ポートフォリオとコンピテンシー追求システムの利用 Thomas Bevitt, Stephen Isbel, Rachel Bacon p24-27

Kolb's learning cycle as a framework for early fieldwork learning 早期臨床教育のための枠組みとしてのKolbのラーニングサイクル Donna J. Barker, Jameela Lencucha, Rhona Anderson p28-34

Supervising role emerging placements: a CPD opportunity that supports innovation in practice 新規実習指導：実践での刷新をすすめるCPD（専門職継続開発訓練）の機会

Alison Warren, Karina Dancza, Elizabeth McKay, Ann Taylor, Monica Moran, Jodie Copley, Sylvia Rodger p35-37

3. EDUCATION CASE STUDIES 教育：ケーススタディ

Using integrated learning experiences to promote clinical competence: an instructional case study 臨床コンピテンシーを促進するために統合学習経験の利用：教育上のケーススタディ Victoria Kaskutas, Monica S. Perlmutter, Steven D. Taff p38-40

Singapore's perspective on applied learning in occupational therapy: beyond clinical practice education シンガポールにおける作業療法の実用的学びの視点：臨床実践教育を越えて Sok Mui Lim, Hua Beng Lim p41-42

Project placement 'enabling occupation' in Switzerland スイスにおける「作業が出来るようにする」プロジェクト型

実習 Dietlinde Arbenz p43-44

Establishing an occupational therapy education programme in Romania: achievements and difficulties ルーマニアにおける作業療法教育プログラムの確立 Mirela-Carmen Burlau, Daiana-Mihaela Popa p45-46

Occupational therapy education: bridging theory and practice together in Portugal 作業療法教育：ポルトガルの理論と実践の架け橋 Elisabete Roldão, Élia Silva Pinto, Joaquim Faias, Maria Dulce Gomes, Susana Pestana p47-48

Bridging theory and practice in OT education at the university of applied sciences for health professions upper Austria オーバーエスターライヒ応用科学大学における作業療法教育の理論と実践の架け橋 Melanie Kriegseisen-Peruzzi p49-50

4. GENERAL PAPERS 一般論文

A case study of a national association's actions to advance the integration of occupational justice and human rights in occupational therapy ケーススタディ：作業療法における人権と作業的公正を統合するための協会活動 Chelsea Gordon, Julie Lapointe, Janna MacLachlan, Janet Craik p51-53

Home modification programme for elderly home owners in Hong Kong 香港での高齢住宅所有者のための住宅改修プログラム Sabrina Li, Kenneth Ka Yu Au Yeung p54-57

5. Explore 追悼

Carmen Forn de Zita 1934-2015

BULLETIN へのアクセス

BULLETIN へは、WFOT の個人会員限定サイトからアクセスすることが可能である。WFOT の個人会員になるには、日本作業療法士協会へ別途 WFOT の個人会員の入会申し込みをする必要がある。協会事務局、協会 HP から WFOT 個人会員申し込み書をダウンロードして申し込む。来年度入会の締め切りは平成 28 年 11 月 30 日となっており、WFOT 会費は協会費とともに請求される。

「医療福祉eチャンネル」番組紹介



講師：杉原素子氏
国際医療福祉大学大学院 教授

新番組

「リハビリ職のための医療福祉管理」

リハビリテーションの専門職(PT、OT、ST)の管理者、教育者を対象に、組織の管理や人の行動特性などについて学びながら、時代にあった新しいマネジメントを理解し、よりよい運営企画をおこなうためのノウハウが詰まった講座です。

日本作業療法士協会提携番組

「生活行為向上マネジメント：基礎編」

日本作業療法士協会会員の方のみがご覧いただける番組です。(基礎研修ポイント取得可)

医療・福祉の動画配信サイト

医療福祉eチャンネル

☎ 0120-870-774 (前9:00~後5:00/土・日・祝を除く)

E-mail: info@iryofukushi.com URL: <http://www.ch774.com>



第 59 回 作業療法全国研修会―熊本会場―のご案内

テーマ：地域包括ケアシステムに向けての作業療法の取り組み

参加登録始まりました!!

本年度の全国研修会は、“明日から臨床で使える知識・技術”の提案としてプログラムを大幅に見直しました。身体障害、老年期障害、発達障害、精神障害と各領域における講座を充実させ講座数を前年の倍以上の 28 講座とし、一日目には「MTDLP」「ADL」「社会参加」「環境調整」「社会資源」とし、二日目には「作業療法の定義改定」をはじめ、「作業を用いた療法」「心と体」というように作業療法の基本を再確認できる内容としました。また、作業療法の重要なツールである MTDLP の実践ならびに活用の拡充など、抱えている素朴な疑問や課題を分かち合う機会になれば幸いです。

作業療法士一人ひとりが「地域包括ケアシステム」への取組みに向けて役割を担いつつ、専門性の発揮を促進する機会となると確信しております。

是非とも万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただきたくご案内申し上げます。

【開催要項】

テ マ：地域包括ケアシステムに向けての作業療法の取り組み

会 期：2017 年 2 月 4 日（土）～ 5 日（日）＜ 2 日間＞

会 場：くまもと森都心プラザ（〒 860-0047 熊本市西区春日 1 丁目 14 - 1）

熊本駅前看護リハビリテーション学院（〒 860-0047 熊本市西区春日 2 丁目 1 - 15）

参 加 費：正会員事前登録 10,000 円（当日受付 12,000 円）

非会員 20,000 円、他職種 5,000 円、学生 1,000 円、一般無料（公開講座のみ）

* 参加費の振込手数料はご自身でご負担ください。

* 一度お振込み頂きました参加費は返金できません。ご了承ください。

* 協会員は公開講座に一般参加枠として聴講はできません。

* 1 日のみの参加の場合も同額になります。

主 催：一般社団法人 日本作業療法士協会 運営協力：一般社団法人熊本県作業療法士会

【交流会のご案内】

研修会 1 日目終了後に交流会を行います。講師の先生方や参加者の皆様と楽しく交流会ができればと思います。是非ご参加ください。

開 催 日：2 月 4 日（土）19：00 ～

開催場所：ホテルニューオータニ熊本（〒 860-0047 熊本市西区春日 1 丁目 13 - 1）

参 加 費：調整中

【宿泊の手配】

宿泊は各個人で手配してください。宿泊予定の方はお早目の手配をお勧めします。

宿泊に関しましては、全国研修会（熊本会場）のホームページをご覧ください。

【申込方法】

＜事前登録＞登録期間：2016 年 11 月 11 日（金）正午～2017 年 1 月 13 日（金）正午まで

協会ホームページ全国研修会バナーの専用申込みフォームから参加登録を行ってください。登録は画面上の案内に沿ってお願いいたします。参加登録後、指定の口座まで参加費の入金をして頂き、事務局での入金確認（入金から 10 日程お時間がかかります）がとれましたら、参加証引換券が登録のメールアドレスへ送信されます。参加証引換券は当日、必ず持参ください。

参加登録は、協会ホームページの全国研修会バナーから!!



＜当日受付＞

2016 年度会員証（または 2016 年度会費振込の受領証）をご持参のうえ、当日直接会場までお越しください。

【問い合わせ】作業療法全国研修会実行委員会（教育部）E-mail：zenken2016@jaot.or.jp

《 第 59 回 作業療法全国研修会 熊本会場 プログラム 》

※テーマ及び講師は予定です

地域包括ケアシステムに向けての作業療法の取り組み

2月4日(土)		第1ホール	第2ホール	第3ホール	第4ホール		
1 日 目	9:45～	開会式					
	10:00～11:20 【協会指定講座1】 官公庁講演	「地域に根差した作業療法士への期待～地域包括ケアシステムの構築に向けて～」 小林 毅 (厚生労働省老健局高齢者支援課)					
	11:30～12:30 【協会指定講座2】 協会長講演	「地域包括ケアシステムへの取り組み～これからの協会のあり方～」 日本作業療法士協会会長					
	12:30～	昼休み (診療報酬ランチョンセミナー: 制度対策部・保険対策委員会)					
	13:30～14:30	「生活行為向上マネジメント事例報告の作成と登録の仕方」 田村 大 (秋田労災病院)	「自立支援に資する MTDLDP ～介護保険領域における実践～」 二木 理恵 (介護老人保健施設 せんだんの丘)	「子どもが育つ・子どもを育むために大切なこと～発達障害領域における MTDLDP の実践から～」 田中 亮 (うめだ・あけぼの学園)	「生活行為の自立を目指して 精神障害領域での MTDLDP の実践から」 (仮) 四本 伸成 (藤元病院)		
	14:40～15:40	「作業に焦点を当てた介入～ADL・IADLを中心に～」 澤田 辰徳 (東京工科大学)	「介護および認知症予防を目的とした『生き活き体操・ご当地体操』の実践」～熊本県作業療法士会の取り組み～」 田中 圭吾 (熊本医療総合リハビリテーション学院)	「子どもの生活課題を成功に導くための作業療法」 濱本 孝弘 (医療福祉センター 聖ヨゼフ園)	「その人らしい暮らしを目指して～作業療法の強みを生かした生活へのアプローチ～」 岡庭 隆門 (静岡県立こころの医療センター)		
	15:50～16:50	「自助具を使って生活行為の向上」 永田 稔 (三重県身体障害者総合福祉センター)	「地域でその人らしい生活を過ごすための作業療法的視点」 藪脇 健司 (吉備国際大学)	「学校における発達障害児への支援」 鴨下 賢一 (静岡県立こども病院)	「精神科デイケアから就労へ～居場所、訓練、医療のあり方～」 市田 忍 (宇治おうばく病院)		
	17:00～18:00	「高齢者の活動と参加を高める福祉用具の活用と作業療法士の工夫」 関谷 宏美 (甲州リハビリテーション病院)	「特別養護老人ホームでわたしらしく生きることを支える作業療法」 野尻 明子 (熊本保健科学大学)	「脳性麻痺児の食事の評価と治療～地域での活動参加支援にむけて～」 伊藤 直子 (かなえりハビリ訪問看護ステーション)	「地域支援からみえてくる環境へのアプローチ」 (仮) 棚澤 直美 (湘南医療大学)		
19:00～	交流会						
2月5日(日)		第1ホール	第2ホール	第3ホール	第4ホール		
2 日 目	9:00～10:00	「作業療法の定義改定」 中村 春基 (日本作業療法士協会 会長) 友利 幸之介 (日本作業療法士協会 学術部) 澤田 辰徳 (日本作業療法士協会 学術部) 東 登志夫 (司会: 日本作業療法士協会 学術部)					
	10:10～11:10	「認知症の人と家族に対する作業療法～役割と習慣に関する作業物語を通して～」 竹原 敦 (湘南医療大学)				「作業療法実践におけるあそびの創出と展開」 黒澤 淳二 (大阪発達総合療育センター)	「精神障害領域における作業活動の意義と用い方」 (仮) 稲毛 義憲 (せんだんホスピタル)
	11:20～12:20	「心と体の重要性～意味のある作業を見つけるために～」 山田 孝 (目白大学大学院)				「子どもの心と体を育てる作業療法」 岸本 光夫 (重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎)	「作業する身体が心や身体に与える作用と作業療法」 山根 寛 (「ひとと作業・生活」研究会)
	12:20～13:00	昼休み					
	13:00～14:00 【公開講座】	調整中					
	14:10～	閉会式					

※講座内容及び講師につきましては、調整させていただいている講座もございます。確定いたしましたら、全国研修会ホームページ、協会誌などで随時掲載させていただきます。

※主催者及び講師の都合により、講演日程、内容等を変更させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※講座内容及び講師につきましては、調整させていただいている講座もございます。確定いたしましたら、全国研修会ホームページ、協会誌などで随時掲載させていただきます。

※主催者及び講師の都合により、講演日程、内容等を変更させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

認定作業療法士取得研修 共通研修			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
管理運営⑧	2016年11月26日～11月27日	新 潟：三条市 燕三条地場産業振興センター	40名
管理運営⑨	2017年1月28日～1月29日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	40名
教育法⑧	2016年12月3日～12月4日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
教育法⑨	2017年1月7日～1月8日	愛 知：名古屋市 imy会議室	40名
研究法⑧	2016年12月10日～12月11日	熊 本：熊本市 熊本保健科学大学	40名
研究法⑨	2017年1月14日～1月15日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名

認定作業療法士取得研修 選択研修			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
選択-16 老年期領域	2016年11月26日～11月27日	東 京：荒川区 首都大学東京 荒川キャンパス	40名
選択-17 身体障害領域	2016年12月3日～12月4日	福 岡：福岡市 麻生リハビリテーション大学校	40名
選択-18 発達障害領域	2016年12月10日～12月11日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
選択-19 身体障害領域	2016年12月17日～12月18日	東 京：豊島区 帝京平成大学 池袋キャンパス	40名
選択-20 身体障害領域	2017年1月21日～1月22日	福 岡：福岡市 麻生リハビリテーション大学校	40名

専門作業療法士取得研修				
講座名		日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
高次脳機能障害	基礎Ⅳ	2017年1月21日～1月22日	福 岡：調整中 調整中	40名
	基礎Ⅴ	2016年12月17日～12月18日	宮 城：仙台市 PARM-CITY131貸会議室	40名
	応用Ⅰ	2017年1月 調整中	京 都：京都市 調整中	40名
精神科急性期	基礎Ⅳ	2016年12月10日～12月11日	東 京：台東区 東京文具共和会館	40名
	応用Ⅰ	2017年2月25日～2月26日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
手外科	詳細は日本ハンドセラピィ学会のホームページをご覧ください。			40名
特別支援教育	基礎Ⅰ-2	2017年1月21日～1月22日	東 京：中央区 アットビジネスセンター東京駅八重洲通り	40名
	応用	2016年12月10日～12月11日	大 阪：大阪市 調整中	40名
認知症	応用Ⅰ	2017年 1月28日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
	応用Ⅱ	2017年 1月29日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
	応用Ⅲ	調整中	東 京：調整中 調整中	40名
	応用Ⅳ	調整中	東 京：調整中 調整中	40名
福祉用具	応用Ⅲ	2016年10月2日〔一日目〕 ※終了	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
		2017年 1月8日〔二日目〕	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	
	応用Ⅳ	2016年10月 1日〔一日目〕 ※終了	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
		2017年 1月7日〔二日目〕	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	
がん	基礎	2017年2月18日～2月19日	東 京：台東区 東京文具共和会館	40名

作業療法重点課題研修			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
人をマネジメントできるリーダー育成研修	2016年12月3日～12月4日	東 京：豊島区 日本リハビリテーション専門学校	60名
心大血管疾患に対する作業療法	2016年12月3日～12月4日	静 岡：静岡市 ふしみや 貸会議室	60名
病棟専従配置における身体障害作業療法に関する実務者研修	2017年1月14日～1月15日	兵 庫：神戸市 兵庫県私学会館	40名
作業療法士のためのリンパ浮腫指導研修会(大阪)	2017年1月15日	大 阪：大阪市 CIVI研修センター新大阪	30名
作業療法士のためのリンパ浮腫指導研修会(東京)	2017年2月5日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名

がんのリハビリテーション研修会			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
がんのリハビリテーション研修会	2017年1月28日～1月29日	会場：大阪医科大学 ※詳細・申込み要領はホームページに掲載しております。	

作業療法全国研修会			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
第59回作業療法全国研修会	2017年2月4日～2月5日	熊本：熊本市 くまもと森都心プラザ	500名程度

生活行為向上プロジェクト研修			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
生活行為向上マネジメント指導者研修	2017年2月11日～2月12日	大阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	100名

認定作業療法士研修			
講座名	日 程 (予定も含む)	開催地 (予定も含む)	定 員
認定作業療法士研修会	2017年2月4日～2月5日	大阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	40名

生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】 2016 年度

現職者選択研修						
講座名	日 程	主催県士会	会 場	参加費	定 員	詳細・問合せ先
身体障害	2016年11月20日	三重県	ユマニテク医療福祉大学	4,000円	80名	詳細：三重県作業療法士会ホームページ 問合せ先：西井病院 リハビリテーション科 北川 知宏 TEL 0598-56-2250 E-mail：rehabilitation@nishii-hospital.org
老年期障害	2016年12月4日	岡山県	川崎医療福祉大学	4,000円	100名	詳細：岡山県作業療法士会ホームページ 問合せ先：ライフタウンまび 片山 利久 E-mail：oka_ot_kyouiku@yahoo.co.jp
老年期障害	2016年12月4日	大阪府	CIVI研修センター 新大阪東	4,000円	70名	詳細：大阪府作業療法士会ホームページ http://osaka-ot.jp/ 問合せ先：大阪府作業療法士会事務局 E-mail：jimu@osaka-ot.jp
身体障害	2016年12月4日	山口県	YICリハビリテーション大学校	4,000円	80名	詳細は決まり次第、山口県作業療法士会ホームページに掲載されます。 問合せ先：介護老人保健施設グリーンヒル美祿 築地 信之 TEL 0837-54-0145
老年期障害	2016年12月11日	千葉県	帝京平成大学 (幕張キャンパス)	4,000円	100名	詳細：千葉県作業療法士会ホームページ 問合せ先：下記メールにてご連絡ください。 桜新町アーバンクリニック 在宅医療部 村島 久美子 E-mail：murashima281211@yahoo.co.jp
老年期障害	2016年12月11日	茨城県	茨城県立医療大学	4,000円	80名	詳細は決まり次第、茨城県作業療法士会ホームページに掲載します。 医療法人 新生会 豊後荘病院 作業療法士 大河原 崇之 TEL 0299-44-3211 FAX：0299-44-3219
* 老年期障害	2016年12月11日	高知県	土佐リハビリテーションカレッジ	4,000円	40名	詳細は決まり次第、高知県作業療法士会ホームページに掲載します。 忠さんのデイサービス 作業療法士 細川 忠 TEL 088-821-8816 E-mail：makotochuu@yahoo.co.jp
身体障害	2016年12月18日	奈良県	秋津鴻池病院 研修棟	4,000円	80名	詳細：(一社)奈良県作業療法士会ホームページ 問合せ先：秋津鴻池病院 リハビリテーション部 木納(きのう)潤一 TEL 0745-63-0601
* 精神障害	2017年2月12日	広島県	広島大学 霞キャンパス	4,000円	80名	詳細：広島県作業療法士会ホームページ 問合せ先：広島大学大学院医歯薬保健学研究院 山根 伸吾 県士会HPにE-mailアドレス等を記載しています

*は新規掲載分です。

詳細は、ホームページをご覧ください。 協会主催研修会の問い合わせ先
一般社団法人 日本作業療法士協会 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot_jigyuu@yahoo.co.jp

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会 「多領域における生活行為向上マネジメントの実践」研修会

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会では、生活行為向上マネジメント（MTDLP）を臨床において効果的に活用するため、多領域における MTDLP 実践の研修会を開催いたします。講師は、MTDLP 指導者をはじめ、各領域の第一線で活躍されている作業療法士です。MTDLP は「作業療法を見える化」したツールと言われています。現在関わっている領域だけでなく、他領域の MTDLP 実践を学ぶことにより作業療法士としてのアセスメント・プランの幅が広がることが期待されます。多くの会員のご参加をお待ちしております。

テーマ：「多領域における生活行為向上マネジメントの実践」

日 時：平成 29 年 1 月 28 ～ 29 日（1 日目：13：30 ～ 17：40、2 日目：9：00 ～ 15：00）

会 場：社会医学技術学院

東京都小金井市中町 2 丁目 22 - 32（JR 中央線 東小金井駅下車徒歩 3 分）

対象者：日本作業療法士協会員（受講料無料）

定 員：100 名（先着順）

申込方法：件名に「多領域 MTDLP 実践研修会申し込み」と記載し、本文を書き、以下 4 つの事項をご記載ください。

①会員番号、②氏名、③所属名、④連絡先住所・電話番号・アドレス

お申し込みアドレス：kenshu-mtdlp@jaot.or.jp

【1 日目：1 月 28 日】	
13：00 ～	受付開始
13：30 ～ 14：30	講義「心大血管疾患に対する MTDLP の実践（仮）」 講師：群馬県立心臓血管センター 生須 義久 氏
14：30 ～ 15：30	講義「がん患者に対する MTDLP の実践（仮）」 講師：太田総合病院附属太田西ノ内病院 宗像 暁美 氏
15：40 ～ 16：40	講義「神経難病に対する MTDLP の実践（仮）」 講師：国立病院機構 高松医療センター 楠原 敦子 氏
16：40 ～ 17：40	講義「脊髄損傷事例に対する MTDLP の実践（仮）」 講師：神奈川県立総合リハビリテーションセンター 松本 琢磨 氏
【2 日目：1 月 29 日】	
8：30 ～	受付開始
9：00 ～ 9：45	講義「髄鞘形成不全症児の自分でトイレに行きたい～暮らしの移動を考える～（仮）」 講師：医療福祉センター 聖ヨゼフ園 濱本 孝弘 氏
9：45 ～ 10：30	講義「発達障害領域（重症心身障害児）における MTDLP の実践②（仮）」 講師：済生会西小樽病院 小玉 武志 氏
10：30 ～ 11：15	講義「『家に帰りたい』の真意～ナラティブから読み解くその人らしさとは～」 講師：介護老人保健施設 恵泉 上田 章弘 氏
11：15 ～ 12：00	講義「就労につながった若年性認知症のケース ～当事者・家族双方の想いのすり合わせ～」 講師：荒尾こころの郷病院 松浦 篤子 氏
12：00 ～ 13：00	昼休み
13：00 ～ 13：45	講義「精神障害領域における MTDLP の実践①（仮）」 講師：メンタルサポートそよかぜ病院 島田 岳 氏
13：45 ～ 14：30	講義「精神障害領域における MTDLP の実践②（仮）」 講師：石川県立高松病院 塩田 繁人 氏
14：30 ～ 15：00	質疑応答・終了

▶高齢者アクティビティ開発センター 主催

第5回「北海道アクティビティ・ケアフォーラム in 釧路」
～「あたりまえの暮らし」をデザインするアクティビティ・ケア～

日 時：2016. 11/26 (土) 10:00～16:10 (9:30より受付開始) 募集中

会 場：釧路ロイヤルイン

参 加 費：《一般》2,500円

《当センター会員／アクティビティ ディレクター／アクティビティ インストラクター》2,000円

《学生》1,500円

定 員：90名

▶「肩関節の基礎」および「リハ栄養の基礎」

☆午前：肩関節、午後：リハ栄養の選択受講です。

日 時：2016. 12/4 (日) 岡山会場

2016. 12/11 (日) 福岡会場

参 加 費：各講座5,000円 (1日を通しての受講：8,000円)

お問合せ：リハビリ看護栄養研究会ホームページ

<http://rihabirikanngoeiyou.web.fc2.com/index.html>

▶第1回自動車運転に関する合同研究会

日 時：2017. 1/21 (土) 9:00～17:00

会 場：北九州国際会議場

参 加 費：4,000円 (事前登録)

お問合せ：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://js-safedrmd.jp/info.html>

主 催：自動車運転に関する合同研究会

▶就業支援スキル向上研修

日 時：2017. 1/25 (水)～27 (金)

会 場：障害者職業総合センター (千葉市美浜区若葉3-1-3)

内 容：職業リハビリテーションにおけるヒューマンスキル、就業支援の実際、ケーススタディ等
※障害別 (精神障害・発達障害・高次脳機能障害) のコースを設定

対 象 者：労働、福祉、医療・保健、教育等の機関において、障害者の就業支援の実務経験が3年以上の方

定 員：90名 (各コース30名)

受 講 料：無料

申込期間：平成28年11月14日～12月20日 ※先着順・定員になり次第申込を締め切る場合があります。

※詳細はホームページをご参照下さい。

https://www.jeed.or.jp/disability/supporter/seminar/skillup_seminar.html

▶第45回日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 厚木

日 時：2017. 1/28 (土)・29 (日)

会 場：プロミティあつぎ (神奈川)

参 加 費：12,000円～20,000円 (テキスト代含む)

お問合せ：車いす SIG 講習会事務局

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20

担当：深野栄子

FAX. 045-352-8166

お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。

ホームページ <http://www.wheelchair-sig.jp>

主 催：日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG

▶第159回国治研セミナー

高次脳機能障害者支援を包括的に理解する

日 時：2017. 2/11 (土)・12 (日)

会 場：大阪アカデミア G ホール (大阪市住之江区南港北1-3-5)

※アクセス 地下鉄中央線「コスモスクエア」駅より無料シャトルバス約5分

講 師：渡邊 修 先生 (東京慈恵会医科大学附属第三病院教授)、ほか

参 加 費：21,000円 (2日間)

2名以上でのお申込み 1名様20,000円

※修了証をご希望の場合は受講料に500円プラスとなります。

お問合せ：国際治療教育研究所 担当：藤澤 純子

Eメール semi-edu@iiet.co.jp

お申込み：国際治療教育研究所ホームページ <http://www.iiet.co.jp> よりお申し込みください。

主 催：国際治療教育研究所

▶サポートツール全国キャラバン2016「教材教具研修会」in 鳥取
発達障害がある子どもひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法

日 時：2017. 2/19 (日) 10:00～16:00 (受付9:30)

会 場：鳥取ふれあい会館 5階講義室

参 加 費：1,000円

お問合せ：NPO 法人 全国 LD 親の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415

TEL./FAX. 03-6276-8985

お申込み：下記メールアドレスまでご連絡ください。

Eメール rakkyou87@yahoo.co.jp

主 催：NPO 法人 全国 LD 親の会

▶第5回日本発達系作業療法学会学術大会

日 時：2017. 3/26 (日) 9:15～16:50

会 場：首都大学東京 荒川キャンパス

参 加 費：事前参加費：会員3,000円／非会員4,000円

当日参加費：会員3,500円／非会員4,500円

お申込み：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://hattatuot.jp/index.html>

主 催：日本発達系作業療法学会

▶バリアフリー2017

第23回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展

日 時：2017. 4/20 (木)～22 (土) 10:00～17:00

会 場：インテックス大阪

参 加 費：無料 (入場者登録制・当日会場での登録またはインターネットによる事前登録)

お問合せ：バリアフリー展事務局

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (株)テレビ大阪エクスプロ内

TEL. 06-6944-9913 FAX. 06-6944-9912

お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。

ホームページ <http://www.tvoe.co.jp/bmk/outline/>

主 催：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ

▶ 第29回日本ハンドセラピ学会学術集会（第60回日本手外科学会学術集会と合同開催）

テーマ：ハンドセラピーにおけるパフォーマンスの獲得
－評価・分析における一考察－

日時：2017. 4/28(金)・29(土)

会場：名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）

参加費：会員 7,000 円 非会員 10,000 円（当日参加の場合）

お問合せ：ホームページ <http://meeting29.jhts-web.org/>

▶ 第20回国際福祉健康産業展～ウェルフェア 2017～

日時：2017. 5/18(木)～20(土)

会場：ポートメッセなごや

参加費：無料

お問合せ：名古屋国際見本市委員会

〒464-0856 名古屋市千種区吹上2丁目6番3号

名古屋市中企業振興会館5階

TEL. 052-735-4831 FAX. 052-735-4836

お申込み：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://www.nagoya-trade-expo.jp/welfare/index.html>

主催：名古屋国際見本市委員会

▶ 第10回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 北海道

日時：2017. 6/3(土)・4(日)

会場：札幌市教育文化会館

参加費：会員 9,000 円 非会員 11,000 円（事前受付）

会員 11,000 円 非会員 13,000 円（当日受付）

お問合せ：マイス株式会社

〒060-0041 札幌市中央区大通東7丁目18番地2

EAST7ビル7階

TEL. 011-280-8008 FAX. 011-280-4000

お申込み：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://www.houmonreha.org/hokkaido/>

主催：一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会

▶ 日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会第18回学術集会

日時：2017. 6/18(日) 9:45～16:10（予定）

会場：山口グランドホテル

参加費：日本 AKA 医学会 PT・OT 会 および日本 AKA 医学会会員 8,000 円

非会員 10,000 円 学生 1,000 円（予定）

お申込み：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://www.aka-japan.gr.jp/shukai.html>

主催：日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会

▶ 第36回 全国デイ・ケア研究大会 2017 in 熊本

日時：2017. 8/4(金)・5(土)

会場：熊本県立劇場

お問合せ：医療法人社団 寿量会

〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8番1号

TEL. 096-345-8112 FAX. 096-345-8188

お申込み：詳細は、下記 URL をご確認ください。

ホームページ <http://36daycare-kumamoto.com/>

主催：一般社団法人全国デイケア協会

▶ リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米 2017

日時：2017. 10/19(木)～21(土)

会場：久留米シティプラザ（福岡）

お問合せ：聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町 448-5

TEL. 0942-35-5522 FAX. 0942-31-3216

実行委員長 渡邊 哲郎（リハビリテーション科診療部長）

「催物・企画案内」の申込先 ➡ kikanshi@jaot.or.jp

ただし、掲載の可、不可についてはご連絡致しませんことをご理解ください。また、2号以上の掲載はお引き受けいたしかねます。なお、原稿によっては割愛させていただく場合がございますので、ご了承ください。

訃報連絡

謹んでお悔やみ申し上げます。

会員番号 54311 小野 敦史（福島県） 10月1日逝去

協会配布資料一覧

資料名	略称	価格
パンフレット 一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1)	パンフ一般	無料 (送料負担) ※ただし、1年につき50部を超える場合は、有料。
一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1) 英語版	パンフ英文	
学生向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 2)	パンフ学生	
作業療法は呼吸器疾患患者さんの生活の質の向上を支援します	パンフ呼吸器	
協会広報誌 Opera16	オペラ 16	300円
Opera20	オペラ 20	
ポストカード ポストカード第1集 ポスター編 (7枚セット)	ポストカード①	300円
広報 DVD 作業療法～生活の再建に向けて～	広報 DVD 再建	各 4,000円
身体障害者に対する作業療法	広報 DVD 身体	
精神障害に対する作業療法	広報 DVD 精神	
Asian Journal of Occupational Therapy (英文機関誌) Vol.1、2、3、4	AJOT1-1、2、3、4	各 500円
作業療法事例報告集 Vol.1 2007 Vol.2 2008 Vol.3 2009 Vol.4 2010	事例集 1、2、3、4	各 1,000円
作業療法関連用語解説集 改訂第2版 2011	用語解説集	1,000円
認知症高齢者に対する作業療法の手引き (改訂版)	認知症手引き	1,000円
認知症アセスメントマニュアル Ver.3	認知アセス	各 100円
機関誌「作業療法」バックナンバー 通巻 No. 5、6、8、9、11～13、⑭、15、17、18、21～24、⑤、27、28、30、③、 (○数字は学会論文集) 32～34、⑤、37～39、42～46、48～50、52、⑤、54～56 No. 29 (白書)		各 1,000円 (白書のみ 2,000円)
日本作業療法学会誌 (CD-ROM) 40、41、42、43、44、45、46、47、49		各 2,730円
作業療法白書 2010	白書 2010	2,000円
日本作業療法士協会五十年史	五十年史	3,000円

作業療法マニュアルシリーズ

資料名	略称	価格	資料名	略称	価格
1: 脳卒中のセルフケア	マ1 脳卒中	各 1,000円	34: 作業療法研究法第2版	マ34 研究法	各 1,000円
5: 手の外科と作業療法	マ5 手の外科		35: ヘルスプロモーション	マ35 ヘルスプロモ	
6: 障害者・高齢者の住まいの工夫	マ6 住まい		36: 脳血管障害に対する治療の実践	マ36 脳血管	
8: 発達障害児の姿勢指導	マ8 姿勢		37: 生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野	マ37 マネジメント	
10: OTが知っておきたいリスク管理 (2冊組)	マ10 リスク	2,000円	40: 特別支援教育の作業療法士	マ40 特別支援	各 1,000円
11: 精神障害者の生活を支える	マ11 精神・生活	各 1,000円	42: 訪問型作業療法	マ42 訪問	
12: 障害児のための生活・学習具	マ12 生活・学習具		43: 脳卒中急性期の作業療法	マ43 脳急性期	
13: アルコール依存症の作業療法	マ13 アルコール		45: 呼吸器疾患の作業療法①	マ45 呼吸器①	
14: シーティングシステム 一座る姿勢を考える一	マ14 シーティング		46: 呼吸器疾患の作業療法②	マ46 呼吸器②	
15: 精神科リハビリテーション 関連評価法ガイド	マ15 精神科評価		49: 通所型作業療法	マ49 通所	
16: 片手でできる楽しみ	マ16 片手		50: 入所型作業療法	マ50 入所型	
17: 発達障害児の遊びと遊具	マ17 遊びと遊具		52: アルコール依存症者のための作業療法	マ52 アルコール依存	
20: 頭部外傷の作業療法	マ20 頭部外傷		53: 認知機能障害に対する自動車運転支援	マ53 自動車運転	
21: 作業活動アラカルト	マ21 アラカルト		54: うつ病患者に対する作業療法	マ54 うつ病	
22: 障害者の働く権利・働く楽しみ	マ22 権利・楽しみ		55: 摂食・嚥下障害と作業療法 一吸引の基本知識を含めて一	マ55 摂食嚥下	
23: 福祉用具プランの実践	マ23 福祉プラン		56: 子どもに対する作業療法	マ56 子ども	
24: 発達障害児の家族支援	マ24 発達家族		57: 生活行為向上マネジメント第2版	マ57 生活行為	
26: OTが選ぶ生活関連機器	マ26 生活関連機器		58: 高次脳機能障害のある人の生活 一就労支援一	マ58 高次生活・就労	
27: 発達障害児の評価	マ27 発達評価		59: 認知症初期集中支援一作業療法士の役割と視点一	マ59 認知初期	
28: 発達障害児のソーシャルスキル	マ28 ソーシャルスキル	各 1,000円	60: 知的障害や発達障害のある人への就労支援	マ60 知的・発達・就労	
29: 在宅訪問の作業療法	マ29 在宅訪問				
30: 高次神経障害の作業療法評価	マ30 高次評価				
31: 精神障害: 身体に働きかける作業療法	マ31 精神・身体				
33: ハンドセラピー	マ33 ハンド				

申し込み方法

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページもしくは機関誌に掲載されている **FAX 注文用紙**、または**ハガキ**にてお申し込みください。

注文の際の資料名は、略称でかまいません (上の表をご参照ください)。有料配布物は送料込みとなっております。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票が同封されてきます。なるべく早くお近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。

札幌学会開催 今回の連盟ブースは協会事務局の隣でした

日本作業療法士連盟事務局 米永 まち子

第50回日本作業療法学会が9月9日から11日まで札幌で開催されました。

日本作業療法士連盟のブースは芸文館ニトリホール1階入口の学会受付の向かい側、日本作業療法士協会事務局ブースの隣でした。ロイトン札幌がメイン会場で、多くの作業療法士が行き来して熱気に溢れていましたが、隣の芸文館は講演の時間帯により人通りに波がありました。それでも新たに14名の入会がありました。「以前から連盟に入ろうと思っていました」との声は、活動をしている事務局にとっては嬉しい限りです。地道ながら続けてよかったと思う反面、PRの方法にまだ余地があると感じました。

中村春基協会長と杉原素子連盟会長が握手し、共に「OTの未来のために」のキャッチフレーズが書かれた「顔出し看板」の前で記念写真を撮る方々も多く見かけました（写真1）。

清水兼悦学会長はじめ連盟役員、会員の方々も連盟事務局に立ち寄り、パンフレットを会員に配布したり、入会の声掛けをしてくださいました（写真2）。

地域での作業療法士が注目される中、活動する若い作業療法士の身分や地位をしっかりと確立するには、やはり

政治家の力添えや協力が不可欠です。政治家が動くのは組織の数の力です。日本作業療法士連盟会員はまだわずか850名です。協会に入会している会員が連盟の会員になれます。

今回の参議院選挙では連盟も理学療法士の小川克巳氏を応援し、10万票を獲得し、みごと当選されました。次は作業療法士から政治家を選出する番です。作業療法士の要望を国政に届けましょう。

政治はあなたの生活の問題です。政治に関心を持ち「作業療法士のよりよい未来が開かれるよう」、協会とも一体となって、一緒に進めていきましょう。

次回連盟総会のお知らせ

次回連盟総会は平成29年2月12日（日）東京の日本作業療法士協会の入っている盛光伸光ビルの10階会議室にて開催予定です。

役員・幹事・都道府県責任者はじめ連盟会員の皆様は開催地をお間違えないよう、よろしくお願いいたします。



写真1 「顔出し看板」で顔を出す富岡詔子氏



写真2 清水兼悦学会長と共に

編集後記

第50回全国学会の特集、そして50周年記念式典に際し各団体からいただいた祝辞の掲載に大きく誌面を割いた号となりました。第51回学会、そして協会設立51年以降へと意識が向かうような内容となっているのではないかと考えております。

さて、来年度は役員改選が行われます。本誌6ページの「平成29年5月は役員改選」で役員改選のスケジュールやQ & Aをご確認いただき、投票に備えてください。また、12月号では次年度の重点活動項目を掲載し、協会活動の指針を皆様にお示しする予定です。平成29年度に向けての動きがこれからますます活発になっていきますので、協会ホームページや本誌などで情報をチェックしていただければと思います。同時に、今年度中に必要な手続きを欠かすことのないよう（特に退会・休会申請や会費納入）、どうぞお気をつけください。

(編集スタッフ M)

本誌に関するご意見、お問合せがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■平成27年度の確定組織率

67.7% (会員数 50,494 名 / 有資格者数 74,615 名^{*})

平成28年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した平成27年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■平成28年10月1日現在の作業療法士

有資格者数 79,959 名^{*}

会員数 54,365 名

社員数 211 名

認定作業療法士数 812 名

専門作業療法士数 80 名

■平成28年度の養成校数等

養成校数 186 校 (199 課程)

入学定員 7,473 名

^{*}有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数から、本会が把握し得た限りでの死亡退会者数を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌 第56号 (年12回発行)

2016年11月15日発行

□広報部 機関誌編集委員会

委員長：荻原 喜茂

委 員：川本 愛一郎、香山 明美、岡本 宏二、磯野 弘司、高梨 信之、関本 充史、多良 淳二、河原 克俊、塚本 千鶴

制作スタッフ：宮井 恵次、大胡 陽子、松岡 薫

表紙デザイン：渡辺美知子デザイン室 / 制作・印刷：株式会社サンワ

発行所 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

一般社団法人 日本作業療法士協会 (TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872)

■協会ホームページアドレス <http://www.jaot.or.jp/>

■ホームページのお問合せ先 E-mail [webmaster@jaot.or.jp]

□求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円 (賛助会員は割引あり)

肩までお湯につかったとき、
あきらめないで
よかったと思いました。

お風呂に入ることは、体を清潔にするだけでなく、心も喜びで満たすこと。様々な理由で、それができなくなったとき、多くの人が入浴の大切さに気づきます。でも、何もあきらめることはありません。再びお風呂に入ることができるようになったあなた、前よりも嬉しそうな顔が私たちには見えます。

人の生きる喜びは、
生活のなかにある。



ひとは作業をすることで
元気になれる



一般社団法人

日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

一般社団法人 日本作業療法士協会 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル
TEL. 03-5826-7871 www.jaot.or.jp

